

経 営 学 部

経営学科（経営コース）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
71401 71402 71406 71407	数学Ⅰ 1・2 数学Ⅱ 1・2	営: 選・必	1	各2	前期 後期	春藤 修二
他の科目 との関連				他学科 履修	不可	重複 履修 不可

【副 題】 数学Ⅰ「線形代数学」(前期)
数学Ⅱ「微分法」(後期)

【講義内容】 数学Ⅰ「線形代数学」においては、連立1次方程式の解の性質と解法、固有値と固有ベクトル等も取り扱う。
数学Ⅱ「微分法」においては、主に1変数関数の微分法の授業をする。

【講義計画】 数学を応用する立場に立って、基礎的概念、定理を分かりやすく説明する。
特に「微分法」においては出来るだけ定理の図形的意味を述べるようにする。
区切り毎に演習問題を取り上げ、理解を深めるようにしながら授業を進める。

【評価方法】 筆記試験による。出席も考慮に入れる。

【テキスト】 適宜指示する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
71411 71412 71416 71417	会計原理Ⅰ 1・2 会計原理Ⅱ 1・2	営: 選・必	1	各2	前期 後期	藤井 達敬 高橋 弘一
他の科目 との関連				他学科 履修	不可	重複 履修 不可

【講義内容】 会計は、企業の経営活動を複式簿記の原理に従って情報化し、貸借対照表や損益計算書等の財務諸表によって報告するシステムである。会計情報の利用者には、経営者や管理者等の企業内部の利害関係者、債権者や投資家等の企業外部の利害関係者ばかりでなく、企画書を作成する社員や、顧客に自社製品の説明を行う営業マンも含まれる。会計情報の理解なくしては、現代の企業活動を理解することはできないし、また、会計情報がどのように作成されるかを知らなければ、会計情報の正しい分析はできない。本講義では、以下の観点から会計の原理について学習する。

【講義計画】 1. 会計制度と社会的意義
2. 複式簿記の原理
3. 企業活動と諸取引
4. 財務諸表の構造

また、会計原理の講義を補足するために、11月中旬に簿記検定3級程度のテストを行う。このテストの可否は、2年次以降の会計学の諸学科目を理解するためには、合格することが重要である。自習用テキストは適宜指示する。

【評価方法】 定期テスト、出席状況等を鑑み、総合的に評価する。同一年度に会計原理Ⅰ・Ⅱを履修する者は同一担当者のクラスを履修しなければならない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71421 ） 71424	経営学Ⅰ 1～4	営： 選・必	1	各2	前期	安藤・高橋(弘一)・ 石黒・斎藤
71426 ） 71429	経営学Ⅱ 1～4	営： 選・必	1	各2	後期	藤井・安藤・薫・石黒
他の科目 との関連	経営学総論A・Bと同時履修することが望ましい。			他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経営学部入学以降に必要とされる経営学の諸分野で使われる英語の文献の読解能力の基礎を養うことを目的として、アメリカにおける代表的な経営学の入門書である下記のテキストを講読する。授業は単なる英文和訳ではなく、英文の大意をパラグラフ毎に理解する速読方式で進められる。内容はビジネス及び経営の基礎的概念や制度の理解に重点を置き、経営理論についても言及する。

【講義計画】 具体的な講義計画については各教員毎に授業の最初の時間に示されるが、概ね経営学Ⅰと経営学Ⅱにおいては、それぞれテキストの以下のPARTを行う予定である。

経営学Ⅰ

1. THE AMERICAN BUSINESS SYSTEM
2. ORGANIZATION AND MANAGEMENT

経営学Ⅱ

1. THE TOOL OF MANAGEMENT
2. BUSINESS OPERATIONS
3. THE BUSINESS ENVIRONMENT : TODAY AND TOMORROW

【評価方法】 試験、レポート、授業参加度等の成績で評価するが、より具体的な評価方法については授業開始時に各教員が指示する。

【テキスト】 Wylie A. Walthall and Michael J. Wirht, GETTING INTO BUSINESS : An Introduction to Business (4th ed.), Harper & Row, 1987.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71432	統計学Ⅰ	営： 選・必	2～4	2	前期	木村 美善
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 統計の方法はコンピュータの発達にともない、様々な分野で活発に用いられるようになっている。この講義では統計学の基礎的概念と手法について解説し、それらがどのように応用されるかを考察する。論理的厳密性よりも直観的理解に重点をおき、統計的なものの見方・考え方を身近な例を用いてわかりやすく説明する。

【講義計画】

1. 統計と社会
2. 平均値と分散
3. 度数分布
4. 確率
5. 確率変数と確率分布
6. 主な確率分布

【評価方法】 リポート 20 %、試験 80 % の割合で評価する。

【テキスト】 宮川公男著『基本統計学』（有斐閣）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71437	統計学Ⅱ	営: 選・必	2~4	2	後期	木村 美善
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 「経営統計学Ⅰ」の学習を前提とし、標本に基づく推測統計学についてわかりやすく解説する。推測統計学の基礎理論と手法およびその応用について理解することが目的である。

【講義計画】 1. 標本分布
2. 推定
3. 検定
4. 回帰と相関の分布
5. 回帰の推測統計理論

【評価方法】 リポート 20 %、試験 80 %の割合で評価する。

【テキスト】 宮川公男著『基本統計学』（有斐閣）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71441 71446	経済原論Ⅰ・Ⅱ	営: 選・必	2	各2	前期 後期	多和田 眞
他の科目 との関連	国際経済学・財政学・金融論等、経済学関係の科目を履修するための前提科目。			他学科 履 修	経営学部 のみ可	重 複 履 修 不可

【副 題】 ミクロおよびマクロの基礎理論

【講義内容】 本講義は経済関係の専門科目や学ぶうえで必要となる経済学の基礎理論の習得を目的とするもので、前半は個々の経済主体の行動や市場のメカニズムに焦点をあてたミクロ経済論を扱い、後半は一国全体の経済のメカニズムと経済政策を内容とするマクロ経済理論をとりあげる。

【講義計画】 以下の順で講義を進める。
前期
①消費者行動の理論
②企業行動の理論
③市場の均衡とその意味
④市場の失敗
⑤国際貿易の理論
後期
①国民所得の決定
②貨幣の需要と供給
③財政・金融政策
④失業とインフレーション
⑤国際マクロ経済理論

【評価方法】 期末テストの総合評価による。

【テキスト】 多和田・尾崎編著『経済学の基礎』（中央経済社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71451	外書講読 1	営: 選・必	2	2	前期	斎藤 孝一
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 本講義で取り上げる文献は、キャッシュフロー計算書に対する理解と認識を高める方法を提案している論文である。キャッシュフロー計算書は、現在最も注目されている財務諸表で、資金の流れをとらえるところに特徴がある。本講ではキャッシュフロー計算書の特徴と貸借対照表、損益計算書との関連に焦点を合わせている。

【講義計画】 講義は論文の順序に従って、次のように行う。

1. キャッシュフローのパターン
2. 純利益とキャッシュフローの比較
3. 純利益とキャッシュフローの調和

【評価方法】 出席、発表、試験を総合して評価する。

【テキスト】 Michael T. Dugan, Benton E. Gup, and William D. Samson. "Teaching the statement of cash flows." (1991) *Journal of Accounting Education*, vol. 9, 33-52.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71452	外書講読 2	営: 選・必	2	2	前期	薫 祥 哲
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重 複 履 修 不可

【講義内容】 環境資源の利用や保護に関する幾つかのトピックを、経済学的な見地から考えてみる。テキストは、色々な環境問題を個々の章で簡潔に述べている入門書である。数学はあまり使われておらず、グラフに基づいた表示と、文章による論説が中心であるが、これらの問題に関する経済学的な考え方の習得を重視する。

【講義計画】 個々の学生に、割り当てられたページの内容を説明してもらいが、クラスでのディスカッションでは全員参加を前提とするので、全員がテキストを読むこと。

【評価方法】 授業出席、小テスト及び、前期定期試験

【テキスト】 P. K. Turner, D. Pearce, and I. Bateman, 1994, *Environmental Economic : An Elementary Introduction*, Harvester Wheatsheaf, New York.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71453	外書講読 3	営: 選・必	2	2	前期	岩 城 秀 樹
他の科目 との関連	情報リテラシー、統計学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。				他学科 履 修	不可 重 複 履 修 不可

【講義内容】 下記テキストを用いて統計学とデータ処理の初歩について講義と問題演習を行う。なお、問題演習についてはマイクロソフト社の表計算ソフトExcelを用いてパソコンで解析処理を行う予定でいる。Excelについては、最初に簡単な操作方法を記述したhandoutを配布する。

- 【講義計画】
1. Excelの始動から、データ入力、終了まで。
 2. Summarizing data by table and by graphical methods.
 3. Summarizing data by numerical measures.
 4. Sample and populations.
 5. Confidence interval estimation.
 6. Hypothesis testing.

【評価方法】 学期末に課すレポートによって評価する。

【テキスト】 Rees, D. G. "Essential Statistics 3 rd.", Chapman and Hall (1995) .

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71454	外書講読 4	営: 選・必	2	2	前期	石黒 真吾
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 経済学から見た経営問題

【講義内容】 下記のテキストを用いて、消費者行動、企業行動および市場メカニズムの働きなどについての基本的な理解を深めることを本講義の目的とする。とりわけ、経済学の立場から経営問題について考察するための分析手法を習得することを目的としている。

【講義計画】 基本的には参加者の発表形式として授業を進めるが、必要に応じて解説を加えるつもりである。また、テキストは必要箇所に応じてこちらでコピーして配布します。

【評価方法】 割り当てられた部分の報告及び期末レポートにより評価する。

【テキスト】 Joseph E. Stiglitz, "Economics," second edition, W.W.Norton & Company, New York, London, 1996.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71455	外書講読 5	営: 選・必	2	2	前期	安藤 史江
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 本講義では、企業変革に関する基礎的知識の習得を目指す。そのため、英雑誌Harvard Business Reviewの中から、企業変革に関する比較的新しい文献をピックアップし、その速読・多読を行う。

【講義計画】 企業変革に必要な様々な側面を順に取り上げる。具体的には、望ましい組織構造、リーダーシップのあり方、組織文化の特徴、組織メンバー間のコミュニケーションなどについてである。

【評価方法】 出席、発表、試験、レポートを総合して評価する。

【テキスト】 コピーした文献を、適宜配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71461 ～ 71464	基礎演習 1～4	営: 選・必	2	各2	後期	湯本 祐司 石黒 真吾 高橋 弘一 安藤 史江
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 3・4年次で経営演習Ⅰ・経営演習Ⅱおよび卒業論文を履修し、各自の専門領域を確立することになるが、その準備として開設されている。経営学科の4コア制（組織・財務・マーケティング・会計）の各コアから1人ないし2人の担当者が基礎演習を担当している。将来の専門領域についてのおよその体系、基本的知識の習得を目的としている。

【講義計画】 具体的な講義計画については各教員毎に授業の最初の時間に示される。

【評価方法】 試験、レポート、授業参加度の成績により評価される。

【テキスト】 適宜指示する。

※本年度、履修を希望する学生は5月頃に実施する予備登録ガイダンスに必ず出席すること（詳細は後日掲示）又、3月の登録時には仮登録コード（71999）を登録すること。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71470	経営演習Ⅰ	営: 選・必	3	4	通年	湯本 祐司
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 マーケティング戦略

【講義内容】 ゲーム理論やミクロ経済理論に基づいたマーケティング理論を中心に学び、それらを踏まえて現代企業のマーケティング戦略を研究する。

【講義計画】 最初に1)のテキストを用いてマーケティング論の基礎知識を確認した後、2)と3)のテキストからゲーム理論やミクロ経済理論に基づいたマーケティング戦略を学んでいく。各自、1つの業界を選んで理論を応用していってもらう。

【評価方法】 ゼミへの参加度、報告、レポート等から総合的に評価する。

【テキスト】 1) 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦著『現代マーケティング戦略』有斐閣、1996年
2) デイキシット・ネイルバフ著『戦略的思考とはなにか』TBSブリタニカ、1991年
3) ネイルバフ・ブランデンバガー著『コーペティション経営ーゲーム理論がビジネスを変える』日本経済新聞社、1997年

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71471	経営演習Ⅰ	営: 選・必	3	4	通年	藤井 達敬
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 財務会計論

【講義内容】 前期では、2年次までに学んできた経営学総論、会計原理等で習得した知識を総合的に復習することに努め、現代社会における企業の役割、機能から始めて、企業活動の諸側面に焦点をあてて理解を深める。
後期では、前期で学んだ知識を基礎に会計学の中でも会計原則論とよばれる領域に焦点をあてて勉強する。特に日本の会計原則の形成に大きな影響を与えたアメリカの会計原則の形成過程から始めて、日本における会計原則の形成過程について勉強する。
なお、年間を通じてサブゼミナールを実施し、そこでは会計関連法規にもとづいた財務諸表の作成演習を行う。

【講義計画】 前期では松田修一著、『会社の読み方入門』日本経済新聞社をテキストに、1. 会社の成立、2. 会社の組織、3. 会社の経営手法、4. トップマネジメントの機能について学ぶとともに、企業会計制度が会社でどのように運用されているかを学ぶ。
後期ではM. Moonitz著 “Obtaining Agreement on Standards in Accounting Profession” AAAをテキストにアメリカにおける企業会計原則の形成過程に関する講義会を行う。その中で、日本における企業会計原則の形成過程についても学習する。
年間を通じて行うサブゼミでは財務諸表規則、計算書類規則、企業会計原則等の会計関連法規にもとづいて、財務諸表の作成演習を練習問題を解く形式で訓練する。

【評価方法】 演習ではサブゼミも含めて出席を重視し、レポートの提出で評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71472	経営演習Ⅰ	営: 選・必	3	4	通年	藤原 道夫
他の科目 との関連	経営労務論、労使関係論、仕事の経済学、データ解析			他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「現代日本の経営と人事労務管理」

【講義内容】 企業についての基礎知識と経営労務についての基礎知識をまとめた後にテーマに沿って勉強していきます。
資料を模索したり、レポートを書くのを課題にする他に、必要に応じて口頭での発表をしてもらいます。
秋学期には、各自のテーマを決定して卒業論文の準備に入っていきます。ゼミ生は、時間割の上で可能ならば、私の担当するデータ解析を受講するようにして下さい。

【評価方法】 レポート、ゼミへの参加度などにより総合的に評価します。

【テキスト】 参考書：日本経済新聞社編『ゼミナール現代企業入門』
津田真澄著『人事労務管理』（ミネルヴァ書房）
伊丹・加護野・伊藤編『人的資源』（リーディングス 日本の企業システム第3巻 有斐閣）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者			
71474	経営演習Ⅰ	営: 選・必	3	4	通年	高 橋 潔			
他の科目 との関連	組織心理学、心理学、経営労務論、データ解析			他学科 履 修	不可	重 複 履 修	不可		

【副 題】 産業・組織心理学

【講義内容】 産業・組織心理学と心理測定法のテキストを用いて、担当する学生の口頭報告を行うこと、学生同士のディスカッションを行うこと、また必要に応じて講義を行うことによって、経営における心理学の役割を認識する。産業・組織心理学の知識を習得し、それを人事労務管理と人的資源管理に応用することが、この科目の目的となる。また、卒論を書くにあたって必要となる心理測定法と心理統計学の知識を習得することも、あわせて目的となる。

【評価方法】 口頭報告、レポート、ディスカッション内容、ゼミへの参加度などにより総合的に評価します。

【テキスト】 岡村一成編著『産業・組織心理学入門（第2版）』福村出版 1994
田中敏著『実践心理データ解析－問題の発想・データ処理・論文の作成－』新躍社 1996

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者			
71475	経営演習Ⅰ	営: 選・必	3	4	通年	加 藤 英 明			
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修	不可		

【副 題】 金融ビッグバンについて

【講義内容】 大変革を目前にした日本の金融業界、この大きな波を乗り越え、新たな戦略を創造していくための条件とは何か。日本の金融システムの現状を検討しながら将来に向けての方策を考える。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者			
71476	経営演習Ⅰ	営: 選・必	3	4	通年	岩 城 秀 樹			
他の科目 との関連	投資論A・Bを同時履修することが望ましい。			他学科 履 修	不可	重 複 履 修	不可		

【副 題】 証券投資論の研究

【講義内容】 経営学科開講の投資論A・Bで講義した内容をより掘り下げて証券分析に関する各種手法について学習・研究して行く。それと同時に受講生の証券分析に必要とされる統計的手法、経済学などの基礎学力の充実が計れるよう指導して行く。特にテキストは指定しないが、毎回事前に資料を配布する。

【講義計画】 以下の内容に関する資料を順番に配布する。
 1. 証券分析とポートフォリオ・マネジメントの目的と課題
 2. 日本の証券市場の構造と特色
 3. 産業動向分析
 4. 企業のファンダメンタル分析
 5. 債券分析
 6. 株式分析
 7. 派生証券分析
 8. ポートフォリオ分析
 各受講生に配布資料について担当箇所を予め割り当てて、資料の内容について報告してもらう。その報告に基づいて受講生とディスカッションを行う。

【評価方法】 ゼミでの各自の報告内容に関して作成してもらうレポートによって評価を行う。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71477	経営演習 I	営: 選・必	3	4	通年	高橋 弘一
他の科目との関連	3・4年次に他の会計学主要科目も必ず履修すること。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 会計理論および企業のディスクロージャー制度の研究

【講義内容】 本演習の課題は次の2つである。
 1. 財務会計の理論と制度に関する学習および研究
 2. 有価証券報告書を用いたわが国大企業の経営分析

【講義計画】 上記課題1に関しては、適宜論題を選定し、順次、報告担当者を指名する。報告担当者には報告用のレジュメの作成・配布が、他の学生にはレポートの提出が求められる。論題を例示すれば、次の通りである。
 ・財産法と損益法
 ・動態論と静態論
 ・発生主義会計の理論構造と資産評価
 ・商法上の「公正なる会計慣行」と「企業会計原則」
 ・継続性の原則の意義と会計処理の原則および手続きの変更
 ・低価法の論理と同法における時価の意義
 ・負債概念と条件付債務
 ・当期業績主義・包括主義と「企業会計原則」の損益計算書
 課題2に関しては、各自選定した上場会社（数社の比較を含む）について、財務諸表分析を中心に、有価証券報告書を用いた経営分析を試みてもらう。この第2の課題は各自の自主研究とするが、適宜、授業の中で、作業の中間報告と分析結果の報告をしてもらう予定。

【評価方法】 報告の際のプレゼンテーション、質疑応答、レポート等を総合的に評価する。ゼミ行事の企画・運営への貢献も、評価の対象に含める。

【テキスト】 主要教材：未定
 副教材：中央経済社編『会計法規集（最新版）』中央経済社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71479	経営演習 I	営: 選・必	3	4	通年	薫 祥 哲
他の科目との関連	受講者は、データ解析と経営環境論を履修すること。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 「環境便益評価論」

【講義内容】 環境資源管理、あるいは環境改善政策が広く議論される様になったが、これらの政策がどの程度の便益を一般消費者にもたらすかを客観的に分析しようという試みは、日本ではあまり進んでいない。その主な理由は、水資源や大気質の改善、あるいは動植物の保護問題に見られる様に、消費者が大切だと見なす環境資源を直接扱うマーケットが存在しないところにある。したがって、環境財からの便益は多くの場合、マーケットがもたらす均衡価格や均衡消費量の情報なしに行われなければならない。

アメリカおよびヨーロッパでは、色々な非市場評価法を用いて環境財からの便益が測定されている。その例としては、

- 1) 仮想的市場法 (Contingent Valuation Method)
- 2) トラベル・コスト法 (Travel Cost Method)
- 3) ヘドニック価格評価法 (Hedonic Valuation Method)

等があげられる。

このゼミでは、ミクロ経済学及び厚生経済学に基づき、環境便益の定義と測定法、そして、その実施例を検討する。英語の文献も使用する。環境便益測定例を討議する上で、一般的な統計及び計量経済学の知識を持っていることが望ましい。

【講義計画】 講義と、レポート報告の両方で進めていく。クラスでのディスカッションでは全員参加を前提とする。

【評価方法】 ゼミでの発表と、レポート内容の評価。

【テキスト】 テキスト：嘉田良平監訳『環境評価の経済学』（多賀出版、1994）
栗山浩一『公共事業と環境の価値』（築地書館、1997）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71480	経営演習 I	営: 選・必	3	4	通年	村本 正生
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 マルチメディア社会と企業

【講義内容】 最近では、マルチメディア、インターネットの記事が新聞に出ていない日はないと言ってもよい。マルチメディアとかインターネットは一過性のものなのか、それとも定着した技術となるのであろうか。可能な限りこのような先端分野の真の姿を捕らえ、また、実際の利用を通して情報を収集し、これからの企業のあり方を探って行きたい。進歩の速い分野であり、何よりも、やる気と旺盛な好奇心が必要である。

【講義計画】 まずは最近の情報処理技術について概観し、基礎知識を学んだあと、できるだけ早い時期に研究するテーマを決定して、テーマについて学習したことを発表してもらい、講義を進めていく。授業時間以外にも計算機を利用して情報を収集解析することも必要になる。

【評価方法】 レポート、試験、発表、ゼミへの参加度など総合的に判断する。

【テキスト】 開講時に受講生の皆さんと相談の上決定したい。テキスト、新聞、雑誌を多数読むことになる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71501 71505	経営学総論A1・B1	営: 選・A	1	各2	前期 後期	大 津 誠
他の科目 との関連	71507 経営学総論B3（国際コース）との重複履修は認めない			他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 アメリカの大学で使用されている経営学の入門的テキストを使用し、現代企業の活動について日米比較の観点から考察する。企業を有機的組織体として総合的に理解することに重点が置かれ、会計、財務、マーケティング、人事等個別の機能についての言及は最小限に止められる。主な内容は以下の通り。経営意思決定、組織計画、経営戦略、組織構造、組織設計、組織開発、経営倫理、国際経営。授業は日本語で行われるが、教科書は英語であるため、ある程度の英語読解力が要求される。

【講義計画】 講義は週1回行われるが、2～3週間につき1章を終えるペースで進む。中間テスト等の時間を除き、全部で10章程度をカバーする予定である。

1. What Management Is

2. Evolution of Management
3. Managerial Environments
4. Managing in the Global Environment
5. Ethics and Social Responsibility
(以上前期)
6. Decision Making and Problem Solving
7. Strategic and Operational Planning
8. Organizational Design, Authority, and Power
9. Organizational Change and Development
10. Management in the Future
(以上後期)

【評価方法】 前期・後期共中間テストと期末試験による。配点は以下の通り。

中間テスト	40
定期試験	60
計	100

【テキスト】 Donald C. Mosley, Paul H. Pietri & Leon C. Megginson, *Management : Leadership in Action* (5th ed.), Harper Collins, 1996.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71502 71506	経営学総論A2・B2	営: 選・A	2~4	各2	前期 後期	岸田 民樹
他の科目 との関連	71507 経営学総論B3 (国際コース) との重複履修は認めない			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「経営と環境適応」

【講義内容】 経営とは、変化する環境における、問題解決過程である。まず、経営学説の発展に伴って、この問題解決過程のあり方が、技術的効率を求めるものから、人間の相互作用を考慮するものへと、さらには、環境状況との関連で、効果的な組織を問題にするものへと、変わってきた。こうして、環境と組織との適合が、その企業を高業績へと導くことが明らかにされた。すなわち、企業は、第1に環境に適合した組織をデザインすることにより、そして第2に環境操作戦略によって、不確実性・依存性を処理して、環境に適応するのである。

【講義計画】 以上の内容を理解するために、
 (1) 経営学説の発展を、合理的モデル——自然体系モデル、Closed System Approach-Open Systems Approachの軸に沿って分類する。
 (2) 環境を3つのレベル (内部環境、特定環境、全般環境) に分類し、第1に技術・規模と組織構造の関連を明らかにし、第2に課業環境と分化・統合 (組織過程) の関連を示し、第3にこの2つの環境が組織デザインに与える影響を考える。
 (3) 最後に、環境操作戦略を、緩衝戦略、自律的戦略、協調的戦略に分けて、これを説明する。組織デザインと環境操作戦略とを使用することにより、企業は効果的にその環境に対処する。
 前期は (1) の経営学説を中心に後期は (2) の企業の環境適応を中心に講義を進める予定である。

【評価方法】 指定されたテーマについて一問、通常の試験と同じように問題を予め指定しないものを一問提出し、講義の全体についての理解度をチェックする。

【テキスト】 岸田民樹『経営組織と環境適応』(三嶺書房、1985)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71515 71521	経営労務論A1・B	営: 選・A	2~4	各2	前期 後期	藤原 道夫
他の科目 との関連	経営学総論A・B、経営組織論A・B、組織心理学A・B 71516 経営労務論A2 (国際コース) との重複履修は認めない			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「構造変動期の経営労務」

【講義内容】 経営労務論は経営（体）内部におけるヒトの問題を取り扱う学問領域である。採用から始まり、能力開発、配置・異動・考課・処遇（昇進昇格、昇給・ボーナス）などに関わっている。同時に、経営組織や経営管理の側面を考慮しないと経営労務論は他の経営学の諸部門と同様に現実世界に対する「政策提言」能力を失う危険性が高い。

この講義では「ヒトが経営（体）の内部で働くことに関わる諸問題」を理解できるように経営労務を解説していく。講義は経営管理・経営組織・行動科学の基本概念をおさえ、戦後の日本の経営発展を概括する。その後に各論を展開していくこととする。各論の展開に当たっては、各論を理解する上でキーになる分析概念について確認していく予定である。

- 【講義計画】
1. 経営労務論の対象領域
 2. 経営組織と経営管理
 3. 動機付けとリーダーシップの理論
 4. 第二次大戦後の日本の経営発展
 5. 日本における経営労務の展開
 6. 従業員の格付けのシステム
 7. 日本企業における格付けのシステム～人事制度～
 8. 人材の流れ～採用・育成・配置～
 9. 人材への処遇～給与・昇格・評価～
 10. 人材への動機付け
 11. 経済構造の変化と経営労務の対応

【評価方法】 試験による。

【テキスト】 津田真澄著『人事労務管理』（ミネルヴァ書房）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
71531 71535	マーケティング論A・B	営： 選・A	2～4	各2	前期 後期	中 田 善 啓		
他の科目 との関連	流通論及び企業戦略に関する科目。				他学科 履 修	可	重 複 履 修	不可

【副 題】 マーケティングの進化

【講義内容】 企業が行っているマーケティング戦略を体系的に説明するが、特にその進化のメカニズムを明らかにし、ダイナミズムに力点を置きたい。マーケティングは市場を形成することによって、企業内、企業間、消費者間の取引の開始から終結までの活動をコントロールして、需要と供給のマッチングを達成することである。具体的にはチャネル、製品、価格、販売促進を中心に企業戦略と関連させて説明する。同時に、マーケティングはダイナミックに変化していくので、その進化のプロセスを明らかにしたい。

- 【講義計画】
1. マーケティングとは何か
 2. 大量生産・大量販売システムのマーケティング
 3. ネットワーク商品のマーケティング
 4. 進化ゲームとマーケティング
 5. マーケティング・チャネルと進化
 6. 技術選択と新製品開発戦略
 7. 技術の進化と進化
 8. 流行のメカニズム
 9. 取引慣行の進化とグローバル化

このような授業を通じて何よりもまず積極的に企業活動、経営問題、企業と社会・環境問題に関心をもつと同時に、明確な問題意識をもち、それを解明する分析能力を身につける手がかりにして欲しい。

【評価方法】 筆記試験、出席することが単位修得の必要条件である。

【テキスト】 中田善啓著『マーケティングの進化』（同文館）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71551 71556	経営財務論A1・B	営: 選・A	2~4	各2	前期 後期	加藤 英明
他の科目 との関連	71552 経営財務論A2（国際コース）との重複履修は認めない			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 本コースの目的は、学生諸君に企業財務の基礎知識を身につけてもらうことにある。具体的には、企業の財務担当者の立場にたって、プロジェクトの評価をどうするか、その場合に用いる割引き率はどのように決めるのか、また、そのようなプロジェクトを遂行するための資金はどのように調達をするのか、配当政策はどのようなのかといった問題等について考えていく。

- 【講義計画】
1. Introduction
 2. ファインナンスの3つの原則 その1 時は金なり
 3. ファインナンスの3つの原則 その2 リスクとリターン
 4. ファインナンスの3つの原則 その3 効率的市場
 5. プロジェクトの評価 その1 将来が見通せるとき
 6. プロジェクトの評価 その2 将来が見通せないとき
 7. 資本構成について
 8. 配当政策について
 9. オプション理論の経営財務への応用
 10. 株式による資金調達
 11. 負債による資金調達
 12. リスク管理
 13. パフォーマンス評価
 14. 企業買収
 15. 短期資金管理
 16. 日本の企業財務の今後

【評価方法】 最終試験（持ち込み不可） 50 %
中間試験（A4サイズのカンニングペーパー持ち込み可） 50 %

【テキスト】 参考書：井手正介、高橋正文『企業財務入門』日本経済新聞社 1992年
加藤 清『株価変動とアノマリー』日本経済新聞社 1990年
Brealey and Myers, Principles of Corporate Finance 5th edition McGraw Hill 1997
Ross, Westerfield and Jaffe, Corporate Finance 4th edition Irwin 1997

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71605 71607	経営管理総論A・B	営: 選・A	2~4	各2	前期 後期	岸田 民樹
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「組織の生成と革新のマネジメント」

【講義内容】 経営管理とは、組織における問題解決過程であり、いかに人間活動を調整し、環境に適応していくかという問題である。本年は、人間の活動が如何にして、組織化された活動へと組み上げられてゆくかという問題意識の下に、組織生成（Organizing）の議論をさまざまな角度から紹介し、さらにそれが革新へと至るプロセスを、あいまい性→多義性の把持・除去→不確実性の吸収による一義化（多元的適合）という軸に沿って分析する。

- 【講義計画】 以上の内容を理解するために、
- (1) 組織論の歴史と分類の枠組（合理的モデル——自然体系モデル、Closed System Approach-Open Systems Approach）を明確にし、
 - (2) 現代のさまざまな組織形態（事業部制組織、株式会社、ネットワーク組織、ピア・グループ、リズム、ホロン、曼荼羅、フラクタル）を識別し、その事例を紹介すると共に、
 - (3) GM社、デュポン社の事業部制への組織革新、日本鋼管・八幡のBOFの導入、3M社のポスト・イットの開発などの事例をとり上げて、革新のプロセスを分析し、
 - (4) 組織の生成・発展は、Organizing→Organizedのサイクルの繰り返しによる組織革新のプロセスであるという考え方を明らかにする。

前期は（１）（２）のルースリー・カップルド・システムの特徴をもつさまざまな組織形態を中心に、後期は（３）（４）の多面的パラダイム・アプローチと革新のプロセスのモデルを中心に、講義を進める予定である。

【評価方法】 指定されたテーマについて一問、通常の試験と同じように問題を予め指定しないものを一問提出し、講義の全体についての理解度をチェックする。

【テキスト】 岸田民樹『経済組織と環境適応』（三嶺書房、1985）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71621 71623	流通論 A・B	営： 選・A	2～4	各2	前期 後期	成 生 達 彦
他の科目 との関連	数学・経済原論を履修していることが望ましい。またマーケティング論、マーケティング・マネジメント及び企業論の履修を推薦する。			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 流通の経済分析

【講義内容】 流通現象をミクロ経済理論のフレームワークを用いて検討する。前期には、流通の役割を情報（伝達）機能を中心に説明するとともに、専売店制、再販制、テリトリー制さらには返品制等の流通系列化について検討する。後期は、企業間の競争関係を踏まえつつ戦略的行動を論じるとともに、日本の流通システムを経済的合理性の観点から評価する。

【講義計画】 隔週 2 コマ連続の講義で、マーケティング論との同時履修ができる。テキストは 14 章あり、1 回の講義で 1 章進む予定。分かりやすく説明するつもりではある。

【評価方法】 定期試験

【テキスト】 テキスト：成生達彦『流通の経済理論』（名古屋大学出版会）
参考書：丸山雅祥『日本市場の競争分析』（創文社）
有賀 健『日本の流通の経済学』（日本経済新聞社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71625	財務会計論 1	営： 選・A	2～4	4	通年	鎌 田 信 夫
他の科目 との関連	会計原理・株式会社会計論・国際会計論 （「会計原理」修得者のみ履修可）			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 財務会計は企業外部の人々が利用する財務諸表の作成に関係した問題を取扱う。例えば、銀行は、企業に対して貸付けを認めるかどうかを決定する場合、企業の現金創出能力に関する情報を求める。投資家は企業に投資するかどうかを決定する前に、企業の収益性に関する情報を求めている。これらの財務情報は財務諸表により伝達される。これらの財務諸表の利用者は多く、いろいろ異なるから、財務諸表の内容および形式についてある程度まで統一化の必要性が生じてくる。この講義では、企業が外部の利用者のために作成する財務諸表の基礎にある諸原則について講述する。

【講義計画】 1. 企業活動と財務諸表
2. 会計概念と方法
（1）貸借対照表、（2）損益計算書、（3）現金収支計算書
3. 一般に認められた会計原則に基づく資産および持分の測定および報告
（1）当座資産、（2）棚卸資産、（3）固定資産、（4）負債、（5）オフ・バランスシート財務、（6）所有主持分、（7）長期有価証券

【評価方法】 1. 定期試験
2. リポート
3. 出席態度
4. その他

【テキスト】 鎌田信夫編著『現金収支情報の開示制度』（税務経理協会）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71626	財務会計論 2	営: 選・A	2~4	4	通年	藤井 達敬
他の科目 との関連	会計原理が履修済であることが望ましい。			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 財務諸表（Financial Statements）は企業の利害関係者に企業の実態についての情報を提供している。企業は財務諸表を定期的に公表することによって社会的責任の一端を果たしている。財務諸表による財務公開制度は商法、証券取引法によっても企業に義務づけられている。このように財務諸表の社会的意義は高いが、財務諸表を作成するには多くの会計的判断を伴う。即ち、会計的事実（経営活動もしくは企業活動）を数値化する過程で多くの会計的判断が必要とされる。会計的判断をするにあたってはその判断の拠り所即ち判断基礎を必要とする。この講義では会計的判断の基礎ともいえる近代会計理論について講ずるとともに企業会計原則、財務諸表規則、計算書類規則についても言及する。

【講義計画】

- I. 近代産業社会と企業会計
 - ①近代産業社会における企業
 - ②利害関係者、社会的責任と企業会計
- II. 近代会計理論の特質
 - ①近代会計理論における利益測定構造
 - ②利益測定構造を支える諸原則
- III. 損益計算書会計
 - ①収益の計上原則
 - ②費用の計上原則
- IV. 資産会計
- V. 負債会計
- VI. 資本会計

【評価方法】 前期・後期の定期試験と年数回のレポートにより評価する。

【テキスト】 新井清光著『新版 財務会計論』（中央経済社刊）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71543	経営倫理 1	営: 選・B	3・4	2	前期	P. Laforge
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 国際コース講義概要参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71544	経営倫理 2	営: 選・B	3・4	2	後期	P. Laforge
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 国際コース講義概要参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71545 71547	経営環境論A・B	営: 選・B	2~4	各2	前期 後期	薫 祥 哲
他の科目 との関連	経済原論を履修している事が望ましい。			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 ミクロ経済理論に基づいて、環境資源の効率的な利用を考える。この場合、資源の最適利用は、その便益と費用の差（純便益）の最大化を意味する。環境資源管理に関する政策手段とその効率性、そして環境改善がもたらす経営的便益を検討する。環境資源管理の政策の必要性は多くの場合、その資源の所有権の不明確さと、生産活動がもたらす外部不経済効果から生じている。実際の環境資源経営を決めていく上での経済理論及び費用便益分析がなしうる役割と、その限界を検討する。

【講義計画】 講義では以下のトピックスを扱う。
 1) 汚染物による外部不経済効果
 2) 再生可能資源と枯渇性資源の最適利用
 3) 異世代間における資源配分ルールと、割引率
 4) 資源配分上のバレード最適条件
 5) 公共財としての環境資源管理
 6) 汚染物排出規制；排出課税とスタンダード設定
 7) 売買可能な汚染物排出権（Marketable Permits）
 8) 環境便益の非市場評価法
 9) 環境財の使用価値、存在価値、オプション価値
 10) 環境リスク管理

【評価方法】 定期試験

【テキスト】 T. H. Tietenberg, *Environmental and Natural Resource Economics*, fourth edition, Harper Collins Publishers, Inc., New York, 1996.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71562 71564	国際財務論A・B 1	営: 選・B	3・4	各2	前期 後期	飯原 慶雄
他の科目 との関連	71563 国際財務論B 2（国際コース）との重複履修は認めない			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 前期は、前半では国際収支、外国為替、国際金融取引、国際通貨制度など、国際金融の制度的側面の概観を説明し、後半では先物、オプション、スワップなど外国為替関係のデリバティブについて、その性質、価格、利用方法について述べる。
 後期は、海外直接投資の問題を国際資本予算論の立場から検討する。正味現在価値、資本コストなど、経営財務論で取り上げられる基本的概念を簡単に復習したあとで、為替レートの変動や、発展途上国の経済政策などが投資決定にどのように作用するか考える。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71635 71637	経営情報論A・B	営: 選・B	2~4	各2	前期 後期	山 田 進
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経営情報論は、現代の経営管理にとって極めて重要な情報システムを、経営管理の観点から重要と思われる以下の各項目について、その現状・実現技術・経営へのインパクトなどを、一般の学生が認識できるよう説明・検討する。

【講義計画】 1. オリエンテーション（経営戦略と電子情報システム）
 2. コンピュータの原理と処理形態
 コンピュータの概要（ハードウェア／ソフトウェア）

- コンピュータの処理形態
データ通信とインターネット／イントラネット
パーソナルコンピュータの意義
3. データ構造とデータベース
データ型とプログラム構造
データベースとデータモデリング
 4. 戦略情報システム
 5. 情報システムの開発と管理の変遷
企業情報システムの発展段階
企業情報システムの開発と管理
ユーザにおける情報システムの分析・設計
 6. 高度情報時代の内部統制とシステム監査
内部統制と監査
情報システムと内部統制の動向
コンピュータ監査の変遷とシステム監査
信頼性とセキュリティマネジメント

【評価方法】 期末試験（筆答試験）

【テキスト】 「経営系の情報処理概論」 酒井・味村・山田共著 オーム社、1988

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71641 71643	簿記論A・B	営： 選・B	2～4	各2	前期 後期	高橋 弘一
他の科目 との関連	会計原理を履修していること。			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 簿記および財務会計論の中級レベルの講義を行う。簿記入門コースではないので、履修上、注意すること。

【講義計画】 簿記論A

（1）実現主義の原則、収益・費用対応の原則、原価の配分など、発生主義会計あるいは原価主義会計と呼ばれる現代企業会計の理論的フレームワークの説明と、（2）そうした理論的フレームワークを企業活動に具体的にどのように適用するかという観点から、（イ）輸出入に代表される遠隔地間の商品売買、（ロ）委託販売、（ハ）割賦販売、（ニ）試用販売、（ホ）予約販売等、いわゆる特殊商品売買の問題と、長期請負工事の会計問題等について講義する予定である。

簿記論B

（1）商的工業簿記および原価計算の基礎、ならびに（2）本支店会計を中心に講義を行う予定。

【評価方法】 定期試験の成績に基づく絶対評価法に、相対評価法を加味して行う。毎回、出欠をとる予定。欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を越えるとき、履修成績評価は「欠席過多（S）」による不合格とする。

【テキスト】 主要教材：未定

副教材：中央経済社編『会計法規集』中央経済社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71651 71653	企業論A・B	営： 選・B	3・4	各2	前期 後期	石黒 真吾
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 企業組織、企業間関係および市場行動

【講義内容】 企業の持つ諸側面——市場における生産・販売行動、労働・金融契約、垂直的取引関係など——を、ミクロ経済学・ゲーム理論の観点から分析する。アプローチは、理論モデルをベースにした数理的分析を中心に行っているため、微分・積分および確率論についての基本的な概念を習得していることが望ましい（必要条件ではない）。

- 【講義計画】 前期 市場における企業行動の分析
 1) 完全競争市場
 2) 余剰分析
 3) 不完全競争市場——クールノーモデル、参入阻止モデルなど——
 4) 政府による産業規制
 後期 企業組織の分析
 1) 情報の経済学——逆選択とモラル・ハザード——
 2) プリンシパル・エージェント理論——労働契約および垂直的取引関係——
 3) 不完備契約理論——企業の境界——

【評価方法】 数回の宿題および前・後期の試験により評価する。

【テキスト】 参考書：西村和雄「ミクロ経済学入門」2版、岩波書店
 参考図書：「現代のミクロ経済学：情報とゲームの応用ミクロ」丸山雅祥・成生達彦（著）創文社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71661 71663	労使関係論A・B	営： 選・B	3・4	各2	前期 後期	藤原 道夫
他の科目 との関連	経営労務論A・B、仕事の経済学A・B			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 国際比較の視点から見た日本の労使関係の構造とプロセス

【講義内容】 労使関係論というのは、勤労者が働き生活する上で作り上げていく労働組合という組織と経営者や国家との関係を探っていく学問領域である（詳しくは、『経営学ガイドブック（第2版）』を参照のこと）。したがって、労働組合の構造と機能とについて十分理解した上で、労働組合と他の組織との関係を研究していくことになる。

講義は、はじめて労使関係のことを考えた諸君にも分かりやすいように、進めていくつもりである。前期は基礎的な知識を学び、後期は理論について考えることを目的とする。教科書・参考書については講義の中で紹介する。

- 【講義計画】
1. 労使関係論の対象と文法
 2. 労働組合の定義
 3. 労使関係の構造
 4. 外国の労働組合と日本の労働組合
～組織化・組合官僚制～
 5. 外国の労使関係と日本の労使関係
～産業レベル～
 6. 外国の労使関係と日本の労使関係
～企業レベル～
 7. 企業別組合の機能
 8. 団体交渉・労使協議・苦情処理
 9. 労働争議
 10. 労働組合効果
 11. 社会経済体制と労働組合

【評価方法】 試験による。

【テキスト】 参考書：白井泰四郎『労使関係論』（日本労働研究機構）
 津田真澄著『現代の労務管理と労使関係』（現代経営学 有閣斐）
 白井・花見・神代『労働組合読本』（東洋経済新報社）
 中村・佐藤・神谷『労働組合は本当に役に立っているか』（総合労働研究所）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71665 71667	組織心理学A・B	営： 選・B	3・4	各2	前期 後期	高 橋 潔
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 このクラスでは、心理学における研究法・測定法に基づいて、組織における人間行動を研究してきた様々な応用研究を展望する。前期では、組織で働く従業員の個人行動・個人差に焦点をあてる。後期では、上司・同僚・部下との間の対人関係や職場での集団過程、並びに職務構造・組織構造を含めた組織過程における諸研究を論じていく。

【講義計画】 前期 組織理論
経営管理・組織行動
能力的個人差
性格的個人差
欲求・職務満足
モチベーション
後期 職務設計
ストレス管理
集団葛藤
意思決定
リーダーシップ
コミュニケーション
組織構造・組織文化
組織開発

【評価方法】 定期試験

【テキスト】 組織の人間行動 植田泰著 中央経済社 1995

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
71671 71673	投資論A・B	営: 選・B	3・4	各2	前期 集中	岩城 秀樹		
他の科目 との関連	統計学Ⅰ・Ⅱ、経済原論Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。経営財務論A・Bとの関連が深い。			他学科 履 修	可	重 複 履 修	不可	

【講義内容】 日本証券アナリスト協会検定試験科目、証券分析の1次試験レベル相当の証券投資のための基本的分析手法のいくつかについて講義する。

【講義計画】 以下の内容を順次講義していく。
投資論A
1. 確率・統計の復習
確率変数
平均・分散・共分散
回帰分析
2. 株式投資
平均・分散アプローチ
CAPM (Capital Asset Pricing Model)
インデックス・モデル
APT (Arbitrage Pricing Theory)
3. 債券投資
利回り計算
金利リスクの測定 (デュアレーション (duration))
投資戦略 (イミュニゼーション (immunization))
投資論B
1. 派生証券投資
先渡と先物
オプション
ワラントと転換社債
スワップ
2. アセット・アロケーション
戦術的アセット・アロケーション
戦略的アセット・アロケーション
ダイナミック・アセット・アロケーション
3. パフォーマンス評価
収益率の測定
収益率とリスクによるパフォーマンス評価

【評価方法】 学期末テストによって評価する。

【テキスト】 投資論A
特にテキストは用いないが、参考書として以下を挙げておく。
1. 証券アナリスト協会編『証券投資論第2版』日本経済新聞社
2. 安達智彦、斎藤進「セミナー現代のポートフォリオ・マネジメント」同文館
投資論B
拙著『デリバティブ理論と応用ー』朝倉書店

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71681 71683	マーケティング・マネジメントA・B	営: 選・B	3・4	各2	前期 後期	湯本 祐司
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 マーケティング・マネジメントとはターゲットの顧客を満足させるような取引の実現を通じて企業の目的を達成するように企業が努力するプロセスであり、それは市場機会の分析・マーケティング戦略の開発・マーケティングプログラムの計画・マーケティングエフォートの管理の4つのステップよりなる。授業ではこのステップ順に体系的にマーケティング・マネジメントを解説する。

【講義計画】 I. マーケティング・マネジメントとは
1. 企業におけるマーケティングの役割
2. 品質・サービス・価値を通じて顧客の満足を創り出すこと
3. マーケット志向の戦略計画
II. マーケティング機会分析
1. 消費者行動の分析
2. 生産財市場の分析
3. 産業と競争企業の分析
4. 流通チャネル分析
5. マーケット・セグメンテーションとターゲット・マーケットの設定
III. マーケティング戦略の開発
1. 差別化とポジショニングの戦略
2. 製品ライフサイクルとマーケティング戦略
3. 競争ポジションと戦略
IV. マーケティング・プログラムの計画
1. 製品ライン、ブランド、パッケージング
2. 価格
3. 流通チャネル
4. コミュニケーション
V. マーケティング・エフォートの管理
1. マーケティング活動の実行・評価・コントロール

【評価方法】 定期試験の成績に、出席状況を加味して評価する。

【テキスト】 P.コトラー著（村田昭治監訳）『マーケティング・マネジメント第7版』プレジデント社、1996年

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71685 71687	市場調査論A・B	営: 選・B	3・4	各2	集中	中田 善啓
他の科目 との関連	マーケティング関係の科目,情報リテラシーもしくはデータ解析を履修済のこと。			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 マーケティングに関する実証研究

【講義内容】 本科目では原則としてマーケティング論の単位を取得した学生を対象として、マーケティング戦略の前提となる実証（統計解析）を講義する。マーケティングは企業や消費者の行動を実証的にとらえて、理論的分析を行うことを特色としている。特に、実務では企業や消費者の行動を実証的、経験的、かつ量的に

把握することはきわめて重要である。本科目では実際のデータをコンピュータにかけるという実習を行い、データ解析の方法を講義する。

- 【講義計画】
1. 市場調査のプロセス
 2. サーベイの方法
 3. 標本抽出法
 4. 仮説検定
 5. 因子分析
 6. 回帰分析
 7. コンピュータの操作方法
 8. SPSS（統計パッケージ）を使って統計分析（実習）
 9. データ解析
 10. レポート提出のための実習
- このような計画に沿って授業を進める。夏期の集中講義という短期の間に統計の知識（上述の1から6）、コンピュータの操作方法、統計パッケージの説明、実習、データ解析をやるので、真面目に出席しなければついていけない。

【評価方法】 出席、実習態度、レポートによって評価する。毎日出席すること。

【テキスト】 アーカー・デイ著『マーケティング・リサーチ』白桃書房
垂水他著『新版SPSSⅡ解析編1』東洋経済新報社

【注 意】 市場調査論A・Bは同時に履修登録すること。
同時に登録しなかった者については、単位認定を行わない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71695 71697	管理会計論A・B	営: 選・B	3・4	各2	前期	斎藤 孝一
他の科目 との関連	会計関連科目を履修することが望ましい。			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 企業会計は、財務会計と管理会計に大別することができる。このうち、財務会計は、投資家や債権者等の企業外部の利害関係者の意思決定に有用な会計情報を提供することを目的としている。これに対し、管理会計は、企業内部の経営者や管理者等に、経営管理上の意思決定や業績評価に必要な会計情報を提供することを目的としている。本年度は近年注目を集めているキャッシュフロー経営についてとりあげる。
本講義は、以下に示す計画に従って、講義を進める予定である。

- 【講義計画】
- A キャッシュフローと意思決定
キャッシュフロー概念の変化
運転資本分析
- B キャッシュフローの予測
キャッシュフローの有用性

【評価方法】 期末試験を中心として、出席率、授業態度等も考慮して総合的に評価する。

【テキスト】 適宜指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71711 71713	税務会計論A・B	営: 選・B	3・4	各2	前期 後期	藤井 達敬 他
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 社会における税金の役割と税務と会計との関係を理解させ、会計上必要な税務の基礎的知識・技術を習得させることを目的とする。日本公認会計士協会東海会所属の会計士グループにより、国税・地方税および国際税務の諸問題について講義する。
会計原理および財務会計論を履修済みの学生（約40名）を対象とする。

【評価方法】 レポート

【テキスト】 その都度、資料を配布する。

税務会計論

年間計画表（平成 11 年度）
水曜日 1・2 時限（9:00～10:30）

前 期			後 期		
4 / 14	税務会計の基礎	木造眞博	9 / 29	所得税	竹尾雅芳
4 / 21	税務会計の基礎	木造眞博	10 / 6	所得税	竹尾雅芳
4 / 28	税務会計の基礎	木造眞博	10 / 13	所得税	竹尾雅芳
5 / 12	法人税 1	水野信勝	10 / 20	所得税	竹尾雅芳
5 / 19	法人税 1	水野信勝	10 / 27	国際税務	佐野正人
5 / 26	法人税 1	水野信勝	11 / 10	国際税務	佐野正人
6 / 2	法人税 1	水野信勝	11 / 17	国際税務	佐野正人
6 / 9	消費税	山内和雄	11 / 24	国際税務	佐野正人
6 / 16	法人税 2	山内和雄	12 / 1	資産税	岡本雅廣
6 / 23	法人税 2	山内和雄	12 / 8	資産税	岡本雅廣
6 / 30	法人税 2	山内和雄	12 / 15	資産税	岡本雅廣
7 / 7	法人税 2	山内和雄	12 / 22	資産税	岡本雅廣
			1 / 12	地方税	岡本雅廣

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71715 71717	国際会計論A・B	営: 選・B	3・4	各2	前期 後期	藤田 幸男
他の科目 との関連	国際会計論BはAを履修したものに限る（Bのみの履修はできない）			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 国際会計は、経済活動の国際化および多国籍企業の出現に伴って生じた会計上の問題を扱う領域である。その目標は国際的に理解できる会計情報をつくりだし、利害関係者に伝達することであり、経済活動の国際的理解を促進し、究極的には国際協力および国際平和の実現に貢献することにある。国際的に理解できる会計情報はどのようにしてつくりだすことができるのか、を中心に講義する。

【講義計画】 〔国際会計論A〕
1. 国際化時代と会計
2. 国際会計の生成と発展
3. 会計基準（原則）とは何か

- 〔国際会計論B〕

【副 題】 経営労務に関するデータの分析

初歩的でかつ利用範囲の広い「カイ2乗検定」、「平均値の差の検定」から始め、回帰分析にまで進む予定である。常に「今、何のために何をしているのか」ということを経営労務論や労使関係論の側面から確認していく。

【講義計画】

1. 端末の操作とSPSSXの実習
2. 質問票とデータ定義
3. 原データの加工、新変数の定義
4. SPSSXと記述統計
5. SPSSXと仮説検定

【テキスト】 SPSSXについてのマニュアル（プリントで配布予定）

【講義内容】 マーケティング・リサーチ等で用いられるデータ分析の手法について講義を行い、統計パッケージを用いた実習をおこなう。統計パッケージとしてはSASを用いる予定であるが変更するかもしれない。統計パッケージやコンピュータの使い方については講義の中で解説する。

- 【講義計画】
1. データ解析の基礎（統計学の復習）
 2. データの要約と整理
 - 1) 度数分布表
 - 2) ヒストグラム
 - 3) クロス集計表
 - 4) 散布図
 3. 仮説検定
 - 1) 平均（あるいは中央値）に関する検定
 - 2) 分散に関する検定
 - 3) 2群の平均の差に関する検定
 - 4) 等分散の検定
 - 5) 独立性の χ^2 検定
 4. 分散分析
 5. 相関分析
 6. (重) 回帰分析
 7. 因子分析
 8. クラスタ分析

【評価方法】 宿題 70 %、期末レポート 30 %。

【テキスト】 未定。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71723	データ解析 3（会計）	営: 選・B	3・4	2	前期	斎藤 孝一
他の科目との関連	会計科目・統計科目を履修することが望ましい。			他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 将来キャッシュフローの分析

【講義内容】 本講義は、わが国の有価証券報告書に掲載されているデータを使用して、将来キャッシュフローの分析を行う。標本として使用する企業は、適宜選択する。
本講義は、以下に示す計画に従って講義を進める予定である。

【講義計画】 講義は、次のような内容を取り上げる予定である。分析測定値は、各種利益、運転資本、日経キャッシュフロー、営業活動、投資活動、財務活動からのキャッシュフローとする。データの解析は、次の2点について行う。(1) キャッシュフローの伝統的尺度と新しい尺度の間に相関があるかどうか。(2) 発生基準による利益は、将来キャッシュフローの予測尺度としてすぐれているかどうか。

【評価方法】 出席率、授業態度を考慮して総合的に評価する。

【テキスト】 鎌田信夫・斎藤孝一著『現金収支分析の新技法』（中央経済社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71724	データ解析 4（環境）	営: 選・B	3・4	2	前期	薫 祥 哲
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 経営業務のさまざまな意志決定を行う上で、数量的データの分析は不可欠である。単なる「平均値」や「分散」といった様な記述統計の概念以外に、統計的な「仮説検定」や「回帰分析」等の手法を理解することはデータの有効利用に多に役立つ。

講義では、一般的な統計学の概念と変数相互間の関係から始め、仮説の立て方とその仮説の統計的検定に進む。さらに、変数相互間の関係を表すモデルを考え、最も広く使われている「最小二乗法」による回帰分析を学ぶ。時間があれば、ロジット・モデル等の「最尤法」に基づく回帰分析も取り扱う。主としては同時点内の横断面データの分析中心に講義を行い、時系列のデータは扱わない。

個々の学生が実際にデータを分析できるように、PCの操作も説明する。統計パッケージとしては、PCをベースとしたTSP（Time Series Processor）と呼ばれる計量経済学用のプログラムを使用する。

【講義計画】 講義とPCを使った演習を平行して進める。教科書以外に必要な参考文献は、講義の時に配布する。

【評価方法】 レポートと練習問題の提出で評価

【テキスト】 和合肇・伴金美著『TSPによる経済データの分析』（東京大学出版会、1995）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71728 71729	データ解析 8・9（企業）	営： 選・B	3・4	各2	前期 後期	安藤 史江
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重複 履 修 不可

【講義内容】 本講義は、下記のテキストを用いて、企業経営に関する統計学やデータ処理の初歩を学習する。また、実際にその知識を活用できるようにするため、統計パッケージSASを用いた実習を行う。分析には、現実の企業データ（二次データ）を用いる予定である。

【講義計画】 本講義では、以下の内容について、講義・実習を行う。

1. SASの基本的な操作方法について
2. 基礎統計量の算出
3. 推定と仮説検定
4. 相関分析
5. クロス表分析

【評価方法】 宿題が70％、期末レポート30％で評価する。

【テキスト】 高橋伸夫「経営統計入門－SASによる組織分析」東京大学出版会、1992

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71735	経営学特問（ゲーム理論と経営行動）	営： 選・B	3・4	2	前期	石黒 真吾
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重複 履 修 不可

【講義内容】 本講義では、企業の経営戦略を理論的に分析するうえでも有効なツールとなりうる「ゲーム理論」について解説する。「ゲーム理論」それ自体は応用範囲の広い数学の一分野であるが、講義では特に企業の経営行動（生産・販売行動や参入・退出行動など）および企業組織（労働契約や金融契約）についての理解を深めるためにゲーム理論の基礎を学習する。

【講義計画】 前半1）戦略形ゲームの分析——支配戦略、ナッシュ均衡——
2）展開形ゲームの分析——完全均衡、繰り返しゲーム——
後半1）不完備情報ゲーム——ベイジアンナッシュ均衡——
2）動学的不完備情報ゲーム——完全ベイズ均衡——
前・後半ともに多くの経営戦略についての例を加えて説明していく予定である。

【評価方法】 数回の宿題および期末試験により評価する。

【テキスト】 参考図書：ロバート・ギボンズ「経済学のためのゲーム理論入門」（福岡正夫・須田伸一訳）、創文社
「はじめてのゲーム理論」中山幹夫（著）、有斐閣ブックス

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71801 71802	現代産業論（損害保険論）1・2	自	3・4	各2	前期 後期	田形 博之
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重複 履 修 不可

【講義内容】 産業が高度に近代化した現代社会において、我々の日常の経済活動・社会生活に於ける「危険」は極めて多様化し、巨大化している。このような環境下で、損害保険は企業・団体・個人の諸活動に不可欠な役割を果たしている。また、近年はあらゆる分野での国際化・規制緩和が進んでいるが、損害保険も例外ではなく、自由化の大きな波に見舞われている。さらに、損害保険が物損害中心から賠償責任をめぐる「危険」にシフトしてきている現状にも触れてみたい。
本講座では損害保険の実務・実態をベースにその理論を連結させて、損害保険事業に対する正しい認識の習得を目指す。

【講義計画】 上述の目標に向けて、
 (1) 損害保険の原理・仕組み・機能を法律・経済学の視点から多角的なアプローチを行う。
 (2) 日本損害保険業界の現状分析と主要商品の研究を行う。
 (3) 賠償責任に関する研究を行う。
 (4) 自由化・規制緩和の現状と今後の方向性について研究を行う。
 という諸点を中心に講義を進めていく予定である。
 極力平易で理解しやすい内容の講義を展開するので、全受講生の積極的な取組を期待する。

【評価方法】 レポートの提出を求める。

【テキスト】 「講義用レジメ」を中心に、講義を進める。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71803 71804	現代産業論（総合商社論）1・2	自	3・4	各2	前期 後期	松井 清治
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 日本の総合商社は、外国に類例を見ない独特な企業形態をもち、地球規模で活動している国際総合事業会社である。日本経済の発展とともに、貿易を中心とした商取引にとどまらず、時代と市場のニーズに対応して金融・物流・コンサルティングなど多様な機能を開発して、あらゆる産業分野にわたり事業投資活動を展開・拡大してきた。

総合商社は、明治初期に誕生し日本の近代化、とくに第二次大戦後の経済・産業発展の縮図と言えるであろう。グローバルな情報化時代を迎えて、総合商社はその機能と役割をどのように位置づけ、またどのような企業戦略を展開して行くのか、改めてその存在意義が問われている。

そこで、“総合商社とは何か”、日本の経済・貿易動向、経済協力および地球環境問題などについても考察しながら、現状と課題および21世紀の将来像を展望する。

【講義計画】 1. 総合商社とは：総合商社の特徴、活動と機能、日本経済と商社の役割
 2. 日本経済と総合商社機能の変遷：明治初期から今日までの日本経済の発展と商社の活動
 3. 世界経済と総合商社の活動：世界貿易と商社の活動、国際協力への取り組み
 4. 総合商社と6大企業集団：外国から批判されている系列問題と総合商社の関係
 5. 総合商社の経営戦略と将来像：グローバル化の進展と日本の経済構造改革への対応
 授業では、国際通商問題、地球環境問題あるいは日本の経済協力における商社の役割や活動のトピックスも取り上げ、またビデオによる商社活動の事例や35年余の商社の実務体験談などを交えて、商社活動の実態に触れることとする。

【評価方法】 授業への参加度（出席状況、質疑応答など）と期末にレポートの提出を求める。

【テキスト】 レジメ「総合商社論」を配付、関連資料を随時配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71805 71806	現代産業論（自動車産業論）1・2	自	3・4	各2	前期 後期	願興寺 皓之
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「日本の自動車産業の特質と課題」

【講義内容】 日本の自動車産業は今、量的にも質的にも一つの転換期を迎えつつある。一方では、国内生産について

これ迄の様な右肩上りの成長が期待できず、他方では、海外生産の拡大により国際関係も単なる通商関係を超えて各国の産業社会政策も含めたものへと深化しつつある。

こうした経営環境変化の中で、自動車産業はどのような歴史的変質を迫られているのか。また、完成車メーカーを中心に今どういう取組みが進められているのか。こうした視点からの産業の実像を整理し、その中から中長期的な問題点と課題を抽出し対応の方向を考えてみたい。

- 【講義計画】 全体を次の3つに区分し、12回で構成する。
 先ず最初に、自動車産業についての基本的な事実関係を確認した上で、それに相応しい産業の役割割り責任について、80年代の米国の空洞化と90年代の再出発を例に具体的に考える。
 次に、戦後の産業形成過程を製造販売そして労使関係の側面からレビューし、日本自動車産業の特質を明らかにする。
 最後に、現在直面する課題を中長期的視点から整理し、将来に向けて健全な産業活動を持続していくための収益構造改革や商品企画・営業の革新そして人事労務政策と労働組合運動の方向を探る。併せて、新たな課題としての環境との共存を考え、最後に日本自動車産業の国際化の方向を展望する。

【評価方法】 毎回講義終了時に提出する自由意見と、テーマレポートから評価する。なお出席回数も参考とする。

【テキスト】 レジメを講義時に配布

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71807 71808	現代産業論（電子・電機産業論）1・2	自	3・4	各2	前期 後期	三田 良治
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

- 【講義内容】 日本の産業界をリードする「電子・電機産業」の発展プロセス、現状と業界がかかえている経営課題を解説し、厳しい国際競争の中で生き残るための将来展望を考える。
 特に、グローバル化、海外戦略について、多面的な考察を行う。
 加えて実社会で役立つ経済・経営問題を都度理解させる。

- 【講義計画】 ・日本の電子・電機産業の歴史（家電を中心に）
 ・日本の電子・電機産業の現状と経営課題
 ・日本企業のグローバル化の歴史と発展プロセス
 ・他国籍企業の経営分析（電機を中心に）
 ・日本の電子・電機産業のグローバル戦略
 ・業界の技術／生産／流通／販売に関する解説
 ・国際協調問題

【評価方法】 レポートと出席率

【テキスト】 随時プリント、資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71809 71810	現代産業論（都市銀行論）1・2	自	3・4	各2	前期 後期	高木 夏樹
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

- 【講義内容】 都市銀行の金融機能、収益構造を踏まえ、激変する経営環境と金融自由化に伴う業務内容の変化、経営戦略について研究する。

- 【講義計画】 第1回 銀行の金融機能
 第2回 我が国の金融システム
 第3回 短期金融市場とは
 第4回 金融政策と都市銀行
 第5回 企業分析と与信判断
 第6回 国際金融リスク
 第7回 国際金融1 資金環流

第8回 国際金融2 シンジケートローン
 第9回 国際金融3 国際証券
 第10回 デリバティブ
 第11回 リスク管理とALM
 第12回 日本版ビッグバン
 第13回 これからの都市銀行像
 レポート提出

【評価方法】

【テキスト】 講義の際、配布予定。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者	
71811 71812	現代産業論（先輩経営者と語る）1・2	自	3・4	各2	前期 後期	藤井 達敬 他	
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修	不可

【講義内容】

南山大学の卒業生で、企業経営の第一線でオーナー経営者として活躍している先輩が学生に語りかける。創業者であり、2代目経営者ありの布陣であるとともに、スモール・ビジネスのオーナーであるが、いずれも日々の判断がその企業に大きな影響をもつ人達が豊富な経験にもとづいて経営論、人生論を講義する。

【講義計画】

現代産業論 ～先輩経営者と語る～

平成11年度年間計画表 火曜日7・8時限(2:40～4:10)

	講義日	講師 卒業年次	会社名 業種	役職	講義テーマ
1	4月13日 9月28日	山本光子 S54 南山短大	ピープルスタッフ(株) 人材派遣業	専務 取締役	企業が求める人材
2	4月20日 10月5日	酒井邦夫 S31 社	中京ビジネスサービス(株) 銀行業務のサポート	顧問	銀行はいま…
3	4月27日 10月12日	山口道夫 S44 米	つばめタクシー(株) タクシー	社長	タクシーは情報の玉手箱
4	5月11日 10月19日	加藤博明 S45 営	(株)プロテックス 写真製版・印刷	社長	まちがい～失敗論～
5	5月18日 10月26日	志水篤彦 S43 営	エスエス工業(株) 照明器具	社長	実践リーダーシップ教室
6	5月25日 11月9日	尾関和成 S47 営 武藤正行 S46 営	(有)柏彌紙店 美術・小間紙 桜木不動産コンサルタント 不動産鑑定士	社長 社長	ふすま紙って知ってる？ 戦後の地価動向と不動産 鑑定士の役割
7	6月1日 11月16日	九鬼綾子 S63 米	ミックインターナショナル(株) 外国語サービス	社長	資本金100万円で作った 会社
8	6月8日 11月30日	松本吉正 S29 仏	(株)若尾総合舞台 舞台TVの演出・照明・音響・美術	プロデューサー	アートとマネー
9	6月15日 12月7日	佐藤久美 S51 米	ナゴヤアベニュー 英文雑誌編集・発行	代表	外国人ライターから見た 名古屋・日本
10	6月22日 12月14日	林 薫 S38 英	(株)大企 広告代理店	社長	ある広告マンの生きざま
11	6月29日 12月21日	小泉寿子 S44 仏	(株)プロンプト コンピュータ教育	社長	仕事っておもしろい！ ～コンピュータとの出会い～
12	7月6日 1月11日	佐々木功 S42 営	サンボッカサービス(株) 自動販売機商社	社長	つまるところ人と人

【評価方法】 レポート

【テキスト】 その都度、配布する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
71813	現代産業論(起業論)	自	3・4	2	集中	三善 英夫
他の科目 との関連					他学科 履修	可 重複履修 不可

【講義内容】 日本経済は慢性的な低成長時代に突入、財政も破綻するなど、国・企業・個人までリストラ色である。景気回復のエンジン役は、アメリカ経済と同様に中堅中小企業の成長にある。ベンチャービジネスのイノベーションとアントレプレナーシップこそが、今の日本経済の活性化に必要である。ベンチャー企業が成功する条件について、外部講師も招いて具体的に解説する。

【講義計画】 第1回 アントレプレナーシップ

- (ホットライン インテグレータ ジャパン)
- 第2回 日本のニッチトップ企業
(ウッド フレンズ)
- 第3回 米国のエマージングカンパニー
(ハギワラ シスコム)
- 第4回 米国のベストスモールカンパニー
(技研商事インターナショナル)
- 第5回 中部のナンバーワン企業
(ダイセキ)
- 第6回 プロテクト・パテント
(足立国際特許事務所)
- 第7回 失敗に学ぶサバイバル戦略
(プロト コーポレーション)
- 第8回 ベンチャービジネスと株式公開
(ちゃんとフードサービス)
- 第9回 ベンチャービジネスとディスクロージャー
(サワコー・コーポレーション)
- 第10回 ビジネスマッチングとM&A
(アイ・エス ロジック)
- 第11回 コーペティションとコラボレーション
(モック)
- 第12回 ベンチャーの旗手たち
(ゼットン・アイ・エス ロジック サワコー・コーポレーション)

【評価方法】 毎回講義終了時に提出する自由意見と、期末にレポートの提出を求める。

【テキスト】 講義の都度、配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71833 71834	国際経営事情 (外国為替と国際金融A・B)	自	3・4	各2	前期 後期	堀 晃 明
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 前期においては、外国為替の仕組、手段、相場、外国為替金融などについて、外国為替の実務面から説明して、外国為替の理解を深める講義を行なう。外国偽替相場が変動した折には、その背景や関連したトピックスも適宜取上げて説明する。後期においては、外国為替市場、外為法の改正などを取上げた後、国際通貨制度の歴史を辿り、また戦後世界的な資金市場に発達したユーロ市場についても触れることとする。なお講義中時間の余裕がある場合には、実社会で役に立つ金融の問題や、日本文化と日本式経営に関する話題などについても取上げ、変化に富んだ講義とする。

【講義計画】

前期

1. 最近のドル円相場
2. 外国為替とは
3. 外国為替の仕組
4. 外国為替手段
5. 外国為替相場
6. 外国為替金融

後期

1. 外国為替市場
2. 為替リスクの回避
3. 外為法改正とその影響
4. 通貨制度
5. ユーロ市場

【評価方法】 筆答試験により講義内容を論理的にどれだけ理解しているかをみて評価する。欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えるとき、履修成績評価は「欠席過多 (S)」による不合格とする。

【テキスト】 なし。ただし、レジメを作成し、これに基づいて講義を進める。

経 営 学 部

経営学科（国際コース）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71101) 71103	英語Ⅰ（読解および作文）１・２・３	国：必	1	各4	通年	P. LaForge P. Binford K. Yasuda
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 Reading and WritingⅠ

【講義内容】 The purpose of this course is to develop high-level skills in academic reading and writing, including preparation for the Test of English as a Foreign Language (TOEFL). The reading component includes practice in intensive, extensive, rapid and critical reading. Vocabulary improvement, study skills training, and other reading skills will also be covered. The writing component includes practice in sentence structure, paragraph, journal, and essay writing. Basic business writing (memos, letters) may also be included. Students will learn computer word-processing and Internet skills. After this training, all compositions must be typed.

【講義計画】 The Syllabus will be explained at the beginning of the course.

【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilities are as follows :
 — Written Examination
 — Oral Examination
 — Oral Report (s)
 — Written Report (s)
 — The use of reference materials is possible
 — Audiovisual equipment for evaluation might be necessary
 — Other methods of evaluation will be decided by each teacher
 If students are absent from more than one third of the total number of scheduled class sessions, they will obtain a failings grade of “S” (excessive absence).

【テキスト】 The text will be decided by each teacher.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71110 71111	国際ビジネス論Ⅰ １・２	国：必	1	各2	前期	加藤 英明
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 本コースの目的は、学生諸君が国際ビジネスにかかわる出来事に興味を持つように手助けすることである。講義ならびに発表を通じて、国際経営ならびに関係する分野の基礎的な知識を身につける。その都度、時事問題をテーマとしてとりあげ討論を行う。

【評価方法】 レポート 50 %
 クラスでの発表 50 %

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71121) 71124	英語Ⅱ（読解および作文）１・２・３・４	国：必	2	各4	通年	P. Bryer J. Gubbins P. Mason M. Fenwick
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 Reading and WritingⅡ

【講義内容】 This course will review and continue to build upon and expand the reading and writing skills practiced in Reading and WritingⅠ. Topics for compositions in this course may be more complex and more academically-oriented than the

topics from Reading and Writing I. Some sections of the course may include a short research paper. All compositions must be typed.

【講義計画】 The syllabus will be explained at the beginning of the course.

【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilities are as follows :

- Written Examination
- Oral Examination
- Oral Report (s)
- Written Report (s)
- The use of reference materials is possible
- Audiovisual equipment for evaluation might be necessary
- Other methods of evaluation will be decided by each teacher

If students are absent from more than one third of the total number of scheduled class sessions, they will obtain a failings grade of “S” (excessive absence).

【テキスト】 The text will be decided by each teacher.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71131	国際ビジネス論Ⅱ	国:必	2	4	前期	大 津 誠
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 国際ビジネスの理解に必要な種々の経済理論を学んだ後、国際ビジネスをめぐる経済的・法律的・経済的環境要因について学ぶ。この科目はそれ自体で完結するが、同時に国際ビジネス活動の諸側面について扱う国際ビジネス論Ⅲに対するイントロダクションとしての役割も果たす。

【講義計画】 アメリカの大学で使用されている国際ビジネスの標準的教科書を使用し、以下のトピックにつき1週間(2回)につき1つずつ終えるペースで進む。

1. development of international trade
2. world investments
3. foreign trade theories
4. foreign investment theories
5. international trade agreements
6. foreign exchange and money markets
7. international monetary system
8. balance of payments
9. commercial policies
10. political environment
11. legal environment
12. economic environment

【評価方法】 小テストと期末試験による。配点は以下の通り。

小テスト 45 (15 × 3)

定期試験 55

計 100

【テキスト】 (予定) George M. Taoka & Don R. Beeman, *International Business : Environments, Institutions, and Operations*, Harper Collins, 1991.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71141	国際ビジネス論Ⅲ	国:必	2	4	前期	A. Iaquinto
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 International Business Ⅲ

- 【講義内容】 This is a course on the management of multinational corporations (MNCs). The course will first briefly discuss the external environment facing the MNC.e.g., international trade, foreign exchange, international legal environment, etc.. Other topics to be surveyed will be the strategy and structure of MNCs, multinational human resources management, multicultural management, multinational finance, and technology transfer.
- 【講義計画】 This course will consist of lectures in English.
- 【評価方法】 One midterm and final examination.
- 【テキスト】 Reading List.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71151) 71154	英語Ⅲ（論文作成法）1～4	国：必	3	各4	前期 後期	K. Yasuda D.Rines
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Academic Writing

【講義内容】 The goal of this course is to write a research paper of at least 2,500 words. The purpose is to develop the skills necessary to write a research paper. There will be activities and discussions designed to help students choose, focus on, organize, develop, and research their topics. Library research and documentation of sources will be emphasized. All homework, including the final paper, must be typed.

【講義計画】 The syllabus will be explained at the beginning of each semester.

【評価方法】 The following criteria will be used for deciding grades.

- Attendance and punctuality :
- Class participation
- Quizzes
- Homework
- Final research paper
- Oral report on research topic

If students are absent from more than one third of the total number of scheduled class sessions, they will obtain a failings grade of “S” (excessive absence).

【テキスト】 The texts will be decided by each teacher and will be announced later.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71161) 71164	テーマ・ディスカッション1～4	国：必	3	各4	前期 後期	P. Mason D. Rines
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Theme Discussion

【講義内容】 The purpose of this class is to develop high-level discussion and oral presentation skills needed for success in university classes and the business world. Most classroom time will be spent analyzing and discussing business cases from the textbook. During the semester students may have to do at least one formal presentation in English. Because this is an oral skills course, regular attendance and active participation in English are extremely important.

【講義計画】 Lesson plans may differ with each teacher and will be explained at the beginning of each semester.

【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher, but any of the following may be used to decide student grades :
— Attendance and punctuality

- Class participation
- Oral presentations
- Quizzes and exams
- Homework
- In-class compositions

If students are absent from more than one third of the total number of scheduled class sessions, they will obtain a failing grade of "S" (excessive absence).

- 【テキスト】 Sawyer-Laucanno, Christopher. 1987. *Case Studies In International Management*. Englewood Cliffs, New Jersey : Prentice Hall.
One more text may be added at a later date.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71171 71172	国際経営基礎研究 1・2	国:必	3	各2	前期 後期	井 上 詔 三
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

- 【副 題】 Business Research Methods

- 【講義内容】 このクラスの目的は、国際経営研究1～5で作成する英文のペーパーを“研究論文”として仕上げるための基礎的手法を身につけることである。国際経営の分野における英文による実証的研究論文の多くは、一定の研究手法論に従って作成されている。そこでこのクラスでは、これらの論文を理解し、研究計画を設計するための第一歩として、経営学の標準的研究方法について学ぶ。主なトピックスは問題設定、文献調査、仮説設定、データ収集、データ分析などである。

- 【講義計画】
1. Research in Business
 2. Scientific Thinking
 3. The Research Process
 4. Design Strategies
 5. Measurement
 6. Sampling Design
 7. Survey Methods
 8. Experimentation
 9. Hypothesis Testing
 10. Measures of Association

- 【評価方法】
1. 筆記試験（中間試験、期末試験）
 2. 教室での報告
 3. 課題
- の合計点

- 【テキスト】 C. William Emory, *Business Research Methods*, 5th ed. Irwin, 1995. 又はWilliam G. Zikmond, *Business Research Methods*, 4th ed. Drydlen, 1994.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71181	国際経営研究 1	国:必	4	4	通年	大 津 誠
他の科目 との関連	国際経営基礎研究の履修を前提とする。同時に4年後期開講の英語論文作成指導を履修すること。			他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

- 【副 題】 Research Seminar 1

- 【講義内容】 このクラスの目的は、経営戦略（strategic management）のアプローチによるケース分析を行い、それを内容とする英文によるtutorial paperを作成することにある。したがって前期では経営戦略に関する代表的なアメリカのテキストを輪読（グループ発表）し、ケース分析の手法を身につける。前期終了時までには各自の興味にしたがってケースの対象となる企業（又はその他の団体）を決定する。夏休み中に、選んだ企業の直面する諸問題について資料収集を行う。後期は前期中に学習したケース分析の手法により、選んだ

企業のとるべき戦略について分析する。毎回 3 人のペースで個人発表を行う（発表のスケジュール表は後期の初日に配布する）。尚このクラスは必修科目であるから正当な理由がない限り欠席を認めない。

【講義計画】

前期

第 1 週	Ch. 1	Introduction to Strategic Management
第 2 週	Ch. 2	Environmental Analysis
第 3 週	Ch. 3	Establishing Organizational Direction
第 4 週	Ch. 4	Strategy Formulation
第 5 週	Ch. 5	Strategy Implementation
第 6 週	Ch. 6	Strategic Control
第 7 週	Ch. 7	Strategic Management in International Operations
第 8 週	Ch. 8	Strategic Management : Social & Ethical Dimensions
第 9 週	Ch. 9	Operating Foundations
第10週	Ch.10	Financial Foundations
第11週	Ch.11	Marketing Foundations
第12週	Ch.12	A Comprehensive Approach to Analyzing Strategic Problems & Cases

後期

第 1 週～第 12 週 個人発表

【評価方法】

出席及び参加（通年）	24（1 点× 24 回）
グループ発表（前期）	12（3 点× 4 回）
Progress Report（7 月 28 日）	8
個人発表（後期）	18（6 点× 3 回）
Tutorial paper（1 月 31 日）	40
計	100

Tutorial paperは 1 月 31 日までに教務課に提出のこと。

【テキスト】

Samuel C. Certo & J. Paul Peter, *Strategic Management : A focus on Process (2nd ed.)*, Irwin, 1993.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71182	国際経営研究 2	国:必	4	4	通年	井上 詔三
他の科目との関連	英語論文作成指導を必ず履修すること。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】

Research Seminar 2

【講義内容】

国際経営の分野のうちHuman Resource Management/Industrial Relationsの領域で、英文によるtutorial paperの作成を目的とする。そのために先ず国際経営基礎研究で学習した「研究方法論」に基づいて、経験的研究を行ったHRM/IRの代表的論文を読解する。次にこのプロセスを通じて各自のテーマを決定し、テーマについての体系的文献調査を行う。最後にその結果を 30 ページ以上のtutorial paperにまとめる。したがってpaperの内容は第一義的には文献調査を想定している。なお、個々の学生の興味・進捗によるが、文献調査の後に記述的研究や、データ収集・分析を要する実証的研究を試みることを推奨する。

【講義計画】

1. Introduction : The Research Process
2. Literature Review
3. Problem Formulation
4. Designing the Study
5. Writing the Paper（12 月末までに草稿を 3 回作成する）

【評価方法】

1. 報告・討論
2. research proposal
3. tutorial paperによる。Tutorial paperは 1 月 31 日までに教務課に提出のこと。

【テキスト】

Lawler, John, and others 1989. "Human Resource Strategies in Southeast Asia," *Research in Human Resource Management*, suppl. 1, JAI Press, pp. 201 - 221. 他, 英文の研究論文を配布。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71183	国際経営研究 3	国:必	4	4	通年	加藤 英明
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Research Seminar 3

【講義内容】 The objective of this seminar is to write a tutorial paper in English in the areas of management. Students will prepare to write this paper by reading selected articles on finance and banking.

【講義計画】 This will be a seminar course. Students will write a proposal that describes their idea for a tutorial paper. Finally, students will write a tutorial paper of 30 pages or more. Each student will present his or her paper.

【評価方法】 Evaluation will be mainly based on completion of the tutorial paper although seminar participation will also be considered. Tutorial paper must be submitted to Kyomuka by January 31, 2000.

【テキスト】 This seminar does not have a required textbook.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71184	国際経営研究 4	国:必	4	4	通年	M. Bremer
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Research Seminar 4

【講義内容】 The objective of this seminar is to write a tutorial paper in English in the areas of international financial management, banking or capital markets. Students will prepare to write this paper by reading selected articles on finance and banking.

【講義計画】 This will be a seminar course. The seminar will start with students reading and presenting articles in finance and banking. Students will then write a proposal that describes their for a tutorial paper. Finally, students will write a tutorial paper of 30 pages or more. Each student will present his or her paper.

【評価方法】 Evaluation will be mainly based on completion of the tutorial paper although seminar participation will also be considered. The tutorial paper must be submitted to Kyomuka by January 31, 2000.

【テキスト】 This seminar does not have a required textbook. However, students will find the following books to be good foundation for the seminar:

Gordon J. Alexander and William F. Sharpe, *Fundamentals of Investments*, Prentice Hall.

Richard A. Brealey and Stewart C. Myers, *Principles of Corporate Finance*, 4th edition, McGraw Hill

Thomas E. Copeland and J. Fred Weston, *Financial Theory and Corporate Policy*.

David K. Eiteman, Arthur I. Stonehill and Michael H. Moffett, *Multinational Business Finance*, Addison Wesley.

Joseph Sinkey, *Commercial Bank Financial Management*, Macmillan.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71185	国際経営研究 5	国:必	4	4	通年	A. Iaquinto
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Research Seminar 5

【講義内容】 This seminar is intended to prepare students to write a major research paper in international business. Students will

be exposed to basic research methods and the process of organizing and writing a major paper of 30 pages or more.

【講義計画】 This course will consist of lectures in English.

【評価方法】 Research paper due on January 31, 2000, to be submitted to Kyomuka.

【テキスト】 Reading List

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71411 71412 71416 71417	会計原理Ⅰ 1・2 会計原理Ⅱ 1・2	国: 選・必	1	各2	前期 後期	藤井 達敬 高橋 弘一
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重 複 履 修 不可

【講義内容】 経営コース講義概要参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71502 71506	経営学総論A 2・B 2	国: 選・必	2~4	各2	前期 後期	岸田 民樹
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重 複 履 修 不可

【講義内容】 経営コース講義概要参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71507	経営学総論B 3 (国際コース)	国: 選・必	1	4	後期	大 津 誠
他の科目 との関連	71501・71502・71505・71506 経営学総論A 1・A 2・ B 1・B 2 との重複履修は認めない				他学科 履 修	不可 重 複 履 修 不可

【講義内容】 アメリカの大学で使用されている経営学の入門的テキストを使用し、現代企業の活動について日米比較の観点から考察する。企業を有機的組織体として総合的に理解することに重点が置かれ、会計、財務、マーケティング、人事等個別の機能についての言及は最小限に止められる。主な内容は以下の通り。経営学の発展、経営環境、国際経営、経営倫理、経営意思決定、組織計画、経営戦略、組織構造、組織設計、組織開発。授業は日本語で行われるが、教科書は英語であるため、ある程度の英語読解力が要求される。

【講義計画】 講義は週2回行われるが、1週間につき、1章を終えるペースで進む。小テスト等の時間を除き、全部で10章程度をカバーする予定である。

1. Evolution of Management
2. Managerial Environments
3. Managing in the Global Environment
4. Ethics and Social Responsibility
5. Decision Making and Problem Solving
6. Strategic and Operational Planning
7. Organizational Design, Authority, and Power
8. Motivation Strategies
9. Organizational Change and Development
10. Future in Management

【評価方法】 小テストと期末試験による。配点は以下の通り。

小テスト	45 (15×3)
定期試験	55
計	100

【テキスト】 Donald C. Mosley, Paul H. Pietri & Leon C. Megginson, *Management: Leadership in Action* (5th ed.), Harper Collins, 1996.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71516	経営労務論A2（国際コース）	国：選・必	2～4	4	前期	高 橋 潔
他の科目との関連	71515・71521 経営労務論A1・Bとの重複履修は認めない			他学科履修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Personnel and Human Resource Management

【講義内容】 このクラスでは、人事・労務管理論に関する英語のテキストに基づいて、企業組織が抱える人事管理・労務管理の諸問題を体系的に学習する。テキストが英語であるため、欧米の理論・研究・事例などが多く紹介されるが、あわせてわが国における経営労務施策との対比を考えていく。受講者には英語の読解力が求められる。

【講義計画】

1. 戦略的人事管理 (strategic human resource management)
2. 雇用機会均等 (equal employment opportunity)
3. 募集 (recruitment)
4. 採用・選抜 (selection and screening)
5. 面接 (employment interviews)
6. 研修・訓練開発 (training and development)
7. 人事考課 (performance appraisal)
8. キャリア開発 (career development)
9. 給与管理 (compensation management)
10. 労使関係 (labor relations)
11. 国際人事 (international human resource management)

【評価方法】 筆記試験

【テキスト】 Gary Dessler, *Human Resource Management* (7th ed.), Prentice Hall, 1997.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71531 71535	マーケティング論A・B	国：選・必	2～4	各2	前期 後期	中 田 善 啓
他の科目との関連				他学科履修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経営コース講義概要参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71541	北米における経営	国：選・必	2～4	4	後期	M. Bremer
他の科目との関連				他学科履修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Business in North America

【講義内容】 This course is an introduction to business in North America. The course will start with a survey of the North American Economy with emphasis on taxes, regulations and the role of government in the economy, as well as the current macroeconomic situation. The course will discuss managerial practices and labor force characteristics of the American economy. The financial side of American business will be explored, emphasizing banking and financial institutions. The distribution system and marketing will also be discussed. Students will read English business

periodicals. Students may write exam answers in Japanese by prior arrangement with the instructor.

- 【講義計画】
- 1 Introduction and Overview
Read: Outline, Parts I and II
 - 2 Historical Perspective
Read: Outline, Part III
 - 3 From Small Business to the Corporation
Read: Outline, Part III
Supplemental Material
 - 4 The Role of Government
Read: Outline, Part VI
 - 5 Financial Markets
Read: Outline, Part V
 - 6 Banking, Monetary and Fiscal Policy
Read: Outline, Part VII
 - 7 Distribution and Production
Supplemental Material
 - 8 Marketing
Supplemental Material
 - 9 Labor & Productivity
Read: Outline, Part IX
 - 10 Foreign Trade/Multilateral Trade Agreements
Read: Outline, Part X
 - 11 American Business and the Environment
 - 12 American Business and Social Responsibility

【評価方法】

Attendance/Class Participation	10 %
Midterm Exam	40 %
Final Exam	50 %

	100 %

【テキスト】 Robert L. McCan, An Outline of the American Economy and Lecture Notes

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71581	アジアにおける経営	国: 選・必	2~4	4	後期	井上 詔三
他の科目との関連	国際ビジネス論Ⅱ、経営労務論を履修していることが望ましい。			他学科履修	可	重複履修不可

【副 題】 Management in Asia

【講義内容】 東アジアは世界で最も高い成長率をとげてきた地域である。しかし、1997年中頃から変調をきたした国が多い。ビジネスの機会と危機がそれだけ多いということである。そこで、この地域の主要な国々の投資環境を検討する。次に、経営行動のうち、人的資源管理・労使関係（HRM/IR）に焦点をしぼり、国際比較の観点から考察する。日系多国籍企業にとっての投資先としての経営環境の善し悪しを評価する能力を高め、課題についての理解を深めるのが、この科目のねらいである。

- 【講義計画】
1. The International Business Environment
The Global Economy : World Investment Flows
The Cultural Environment of International Business
The Political Environment
 2. Asia-on-line : World Wide Web
 3. Case of Foreign Direct Investment
Japanese Multinational Companies
 4. Analytical Framework on HRM/IR
Industrial Relations Systems
Changing Directions of HRM
 5. The Development Experience of Asian NIEs and ASEAN Countries
 6. Studies of Industrial Organizations and Management
Korea : the chaebols
Taiwan : a case study of a large private enterprise

Hong Kong and Singapore HRM practices
Thailand and India : HRM/IR cases
7. Contemporary Issues in HRM/IR in Global Companies

- 【評価方法】 1. 筆記試験（中間試験 2 回、期末試験）
2. 教室での報告及び小プロジェクトレポート

【テキスト】 B. J. Punnett and D. A. Ricks, *International Business*, PWS-Kent, 1992 .他研究論文、資料を配布。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71543	経営倫理 1	国: 選・必	3・4	2	前期	P. LaForge
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Business Ethics through Meditation

【講義内容】 Business Ethics refers to the study of right and wrong conduct in the business world. Three relationships are especially important : to oneself, to the earth environment, and to others in the business world. The ethical problems connected with each relationship will be taken up together with meditation. Ethical problems with one's own value system will be studied through nondiscursive meditation. Ethical problems with the environment will be studied in connection with semidiscursive meditation. Ethics in regard to others in the business world [individual and corporate responsibility, hiring, promotion, downsizing, mergers : customers, creditors, stockholders, government officials] will be taken up together with discursive meditation. There will be frequent reflection periods, case studies, and small group discussions. The course will be conducted in English.

【講義計画】 Week One : Introduction to Ethics through nondiscursive meditation.
A definition of Business Ethics.
Week Two : The historical background of Business Ethics.
Why do we need a course on Business Ethics in the Business School?
Continuation of nondiscursive meditation sessions together with small group discussion, reflection, and reporting in class.
Week Three : Introduction of the environmental problem through semidiscursive meditation. Clarification of personal values through reflection. Readings on the personal values of managers and the personal responsibility of managers. Why ethical problems arise in business.
Week Four : The necessity of an ethical vision for business people.
Continuation of semidiscursive meditation sessions [the clarification of the values of the individual through semidiscursive meditation sessions, followed by reporting from the Bible, a continuation of small group discussions and class reporting.
Week Five : Corporate ethical values and responsibility introduced through discursive meditations. Biblical reflections together with case studies will be carried on in small groups, as time permits.
Week Six and Conclusion as time permits : as many case studies as possible. Cases will be analyzed through the values and principles of all the parties involved.
Class activities will include three kinds of meditation [nondiscursive, semidiscursive, and discursive]each followed by reflection periods. Other activities include class reporting, small group discussion, articles on personal and corporate business ethics, case studies, and ethical ideals and rules from the Bible. Other topics will be introduced according to the wishes and needs of the students.

【評価方法】 The Marking System is as follows ;
Attitude in class
Attendance
Process Reporting
Reports

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71544	経営倫理 2	国: 選・必	3・4	2	後期	P. LaForge
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「Meditation」による経営倫理

【講義内容】 経営倫理は企業における「善」と「悪」の問題を取り扱う。経営倫理においては次の3つの関係が重要である。即ち、自己と自己の価値観との関係、地球との関係、及び企業世界との関係である。自己との倫理的关系は理想により、地球との倫理的关系は準理想により、他者との倫理的关系は黙想により学習する。他者との関係とは企業社会における個人の責任と企業の責任、採用、昇進、企業縮小・退職時における人間の尊厳、顧客・納入業者・株主等に対する倫理的行動、競争企業との関係および合併の問題を含む。学習者個人による熟考 (reflection) と小グループのディスカッションによって受講者の人間としての成長が期待されている。

【講義計画】 講義は日本語で行われる。

【評価方法】 授業態度
授業参加度
出席
レポート

【テキスト】 モラロジー研究所『モラロジー経営原論』広池学園出版那（1993年）及び必要に応じて英語による教材を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71545 71547	経営環境論A・B	国: 選・必	3・4	各2	前期 後期	薫 祥 哲
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経営コース講義概要参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71552	経営財務論A2（国際コース）	国: 選・必	3・4	4	前期	M. Bremer
他の科目 との関連	71551・71556 経営財務論A1・Bとの重複履修は認めない			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Management Financial Theory (Corporate Finance)

【講義内容】 This course explores the tools and concepts of corporate finance. Specific topics covered will include time value of money, risk, return, cost of capital, capital budgeting and working capital management. Students are required to read business periodicals and to keep up with current business events. Regular attendance is required. Lectures will be in English.

Assignments and exams should be written in English, but it is acceptable to use Japanese.

【講義計画】
1 Stocks, Bonds and Financial Statements
2 Present Value
3 Risk and Return
4 Working Capital Management
5 Exchange Rates and Financial Management

【評価方法】 Grades will be determined on a relative basis with weights as follows:
Attendance/Class Participation: 10 %; Homework: 20 %; Midterm Exam 30 %; and Final Exam 40 %.

【テキスト】 Richard A. Brealey & Stewart C. Myers, Principles of Corporate Finance

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71561	国際人事管理論	国: 選・必	3・4	4	前期	井上 詔三
他の科目 との関連	経営労務論（国際コース）の履修が望ましい。			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 International Human Resource Management

【講義内容】 The purpose of this course is to explore the relationships between human resources, employee relations, and company economic success, both from practical and theoretical points of view. The course first explores the foundations of international human resource management, then focuses on the similarities and differences among global companies in terms of human resource management styles.

【講義計画】 Topic
 1. Introduction
 Going International
 Control Issues in International Companies
 2. Human Resource Management in International Companies
 Strategic Orientation
 3. Globalizing Management
 Management Styles-similarities/differences
 The Best Practice?
 4. Current Issues
 Japanization?
 Global Alliances
 "International Labour Standards"
 5. New challenges for Japanese Multinationals

【評価方法】 There will be two examinations : one midterm examination worth 30 percent of the final grade and final examination worth 50 percent. The remaining 20 percent of your grade will come from several written assignments which will be discussed further in class.

【テキスト】 A. M. Rugman and R. M. Hodgetts, *International Business* McGraw Hill, 1995. 他から抜粋。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71563	国際財務論B 2（国際コース）	国: 選・必	3・4	4	後期	M. Bremer
他の科目 との関連	71562・71564 国際財務論A・B 1 との重複履修は認めない			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 International Financial Management

【講義内容】 This course deals with international financial markets and with the international dimensions of corporate financial management. The fundamental issue is how to deal with exchange rate movements.
 Lectures, exams and assignments will be in English. Assignments and exams should be written in English, but Japanese is also acceptable. Attendance is required.

【講義計画】
 1 Cash and Spot Exchange Markets
 2 Forwards, Futures and Options
 3 Purchasing Power and Interest Parity
 4 Foreign Exchange Risk and Exposure
 5 How to Hedge and Speculate
 6 Transfer Pricing and Country Risk
 7 Foreign Direct Investment
 8 The Instruments and Organization of International Trade

【評価方法】 Attendance/Class Participation 10 %; Homework/Case Studies 20 %; Midterm Exam 20 %; and, Final Exam:

50 %.

【テキスト】 Maurice D. Levi, International Finance, McGraw Hill, Third Edition, 1996 . (The second edition is fine too.)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71567	日本の経営	国: 選・必	3・4	4	後期	A. Iaquinto
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Japanese Business

【講義内容】 This is a course on Japanese business and management designed primarily for students enrolled in the International Course. After a brief review of the historical development of Japanese business institutions from the Tokugawa era through the 1960 's, the class will examine contemporary Japanese business and management practices.

Major topics will include the political, economic and international environment of business, industrial structure, decision making processes, personnel practices, labor management relations, distribution systems, and financial markets. Throughout the course a central question will be addressed : What are the strengths and weaknesses of "Japanese style management" ?

【講義計画】 This course will consist of lectures in English.

【評価方法】 One midterm and final examination.

【テキスト】 Reading List.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71575	国際マーケティング論	国: 選・必	3・4	4	後期	A. Iaquinto
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 International Marketing

【講義内容】 This course covers some of the major topics in international marketing, including international marketing research, pricing, promotion, distribution, and product development.

【講義計画】 This course will consist of lectures in English.

【評価方法】 One midterm and one final examination.

【テキスト】 Reading List.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71432 71437	統計学Ⅰ・Ⅱ	国:選	2~4	2	前期 後期	木村 美善
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経営コース講義概要参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71726	データ解析 6 (国際コース)	国:選	3・4	2	前期	M. Bremer
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 Data Analysis

【講義内容】 The objective of this course is to prepare students to conduct basic research in business and finance. Students will use computers and statistical software. Regular attendance is necessary. Students will take one exam and complete two data analysis projects. Lectures will be in English. Assignments and exam answers should be written in English, however Japanese is acceptable.

【講義計画】

- 1 Introduction — What is statistics?
What is TSP?
What is a spreadsheet?
Setting up an email/computer account
- 2 Summarizing Numeric Information
Introduction to Financial Data
- 3 Probability
- 4 Random Variables
- 5 Sampling and Survey Methods
- 6 Estimation (Point and Interval)
- 7 Hypothesis Testing
- 8 Regression and Correlation
- 9 Analysis of Variance
- 10 Final Exam

【評価方法】 Evaluation will be based on successful completion of assigned homework, two research projects, examination scores and attendance.

【テキスト】 Paul Newbold, Statistics for Business and Economics, 4 th edition, Prentice Hall, 1995 .

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71727	データ解析 7 (国際コース)	国:選	3・4	2	後期	高 橋 潔
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 この授業は、実習・講義・宿題・レポート作成を通じて、統計に関する知識、ならびに実証研究を実施する際に必要となる数々の技能を修得することを目的とする。授業では特に、履修者自らが回収する調査アンケートデータを、SASという統計解析ソフトウェア・パッケージを使って解析し、単純集計・クロス集計・代表値・平均・標準偏差・分布・分散分析・相関係数・回帰分析・因子分析などの統計量と統計技法を解析実習を通じて学習していく。授業でカバーする実習内容は多く、進み方が非常に速いため、毎回出席できる学生だけが履修すること。

【評価方法】 課題 50 %
レポート 50 %

【テキスト】 得津一郎・高橋英世 (1996)、SASでらくらく統計学：経済・経営のためのデータ解析入門、東京、有斐閣

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71771 71775	ビジネス英語A1・B1	国:選	3・4	各2	前期 後期	S. Gilfert
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 Business English

【講義内容】 This course is designed to prepare students to take the TOEIC (Test of English for International Communication). The TOEIC is now being used by many companies for recruitment. Students will become familiar with the overall format of the test and will learn strategies and skills to improve their test scores.

Prerequisites : Open to 3rd and 4th year students. A 2.5 or higher GPA in English I and II (Conversation) or Sogo English I and II, or the approval of the instructor. A TOEFL Section I (Listening Comprehension) score of 48 or higher is recommended. Enrollment is limited to 40 students.

Note : In the second class meeting, students will take a shortened version of the test. It is therefore essential that you come to the second class meeting on time.

【講義計画】 The syllabus will be explained at the beginning of each semester.

【評価方法】 — Attendance and performance in class
— Two examinations

If students are absent from more than one third of the total number of scheduled class sessions, they will obtain a failing grade of "S" (excessive absence).

【テキスト】 TOEIC strategies, by Susan Gilfert.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71772 71776	ビジネス英語A2・B2	国:選	3・4	各2	前期 後期	T. O'Neill
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 Business English

【講義内容】 Students may take either or both sections. Content will vary depending on class needs. Topics may include (1) how to give an effective business presentation using an OHP (overhead projector), blackboard, whiteboard, or handout ; (2) how to conduct and participate in business meetings, including starting, contributing to, and closing the discussion ; and (3) how to conduct interviews for hiring, evaluating, and collecting data.

Prerequisites : Open to 3rd and 4th year business students. A 2.5 or higher GPA in English I and II (Conversation) or Sogo English I and II, or the approval the instructor. A TOEFL Section I (Listening Comprehension) score of 48 or higher is strongly recommended. Enrollment : Limited to 40 students each semester.

【講義計画】 The syllabus will be explained at the beginning of the course.

【評価方法】 Any of the following criteria may be used in deciding grades :

- Written Examination
- Oral Examination
- Oral Report (s)
- Written Report (s)
- The use of reference materials is possible.
- Audiovisual Equipment for evaluation might be necessary
- Other methods of evaluation to be decided by the teacher

If students are absent from more than one third of the total number of scheduled class sessions, they will obtain a failing grade of "S" (excessive absence).

【テキスト】 The text will be announced at a later date.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71781 } 71787	時事英語A～G	国：選	3・4	各2	前期 後期	J. Gubbins P. Binford P. Tanner M. Fenwick
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 Current Topics

【講義内容】 The course will develop and practice speaking, listening and reading skills. Topics will be chosen by the class. Depending upon the topic chosen, each student will select articles from newspapers, magazines, and journals according to his/her interests.

The student is responsible for explaining and listening to presentation by other students. Active participation in discussions is required. There may also be a semester project.

【講義計画】 The syllabus will be explained at the beginning of the course.

【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilities are as follows :

- Written Examination
- Oral Examination
- Oral Report (s)
- Written Report (s)
- The use of reference materials is possible.
- Audiovisual equipment for evaluation might be necessary
- Other methods of evaluation to be decided by each teacher

If students are absent from more than one third of the total number of scheduled class sessions, they will obtain a failing grade of "S" (excessive absence).

【テキスト】 No text required.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
71791 } 71795	英語論文作成指導 1 ～ 5	国：選	4	各2	後期	M. Bremer A. Iaquinto B. Deacon M. Fenwick P. Binford
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 English Thesis Tutorial 1 ～ 5

【講義内容】 The purpose of this course is to assist management students who are writing their tutorial papers in English. Students will learn how to improve their English writing style and how to organize and format a long research paper according to standard manuscript guidelines.

Word processor skills are required. Lectures will be in English.

【講義計画】 The syllabus will be explained at the beginning of the semester.

【評価方法】 Depending on the teacher, the following criteria may be used for deciding grades :

- Attendance and Participation
- All written work
- Oral Reports

If students are absent from more than one third of the total number of scheduled class sessions, they will obtain a failing grade of "S" (excessive absence).

【テキスト】 Texts to be decided by each teacher and announced later.

經 営 学 部

情報管理学科

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75105 ┆ 75108 75111 ┆ 75114	情報実習Ⅰ 1～Ⅰ 4 情報実習Ⅱ 1～Ⅱ 4	必	2・3	各2	後期 前期	後藤 邦夫 松田 真一 鈴木 敦克 佐々木 利治 長谷川 克巳 穴太 克裕 佐々木 美裕 Kanad Keeni
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 情報実習Ⅰ、Ⅱでは、オペレーションズ・リサーチ、システム関連、統計学、数学の4つの分野について、それぞれの分野の教員が順次、3ないし4回ずつ講義と実習指導を行う。最初に講義日程とLaTeX、HTMLなどの計算機システムの説明をし、それらを用いて文書作成の実習を行う。その後、各担当者の指導のもとに、それぞれの具体的なテーマについて勉強する。担当者ごとに課題を与え、それについてのレポートを評価する。課題の多くは、計算機を用い、与えられた問題を解決し、それに考察を加えるものである。4つの小人数クラスに分かれるため、クラスにより担当順は異なるが、Ⅰ、Ⅱを通しての内容は同じである。

各担当の講義内容の概略は以下の通り。

統計学（松田） [統計学実習]

統計パッケージSplusを用いた実習で回帰分析とクラスター分析を行なう。

コンピュータによる統計解析は出力結果を得る手順を把握することが目標の一つであるが、さらに出力結果の見方・考え方を培うことも目標とする。

数学（佐々木克巳） [式の構造]

機能的に定義された「式」の構造とその表現方法を学ぶ。プログラムについては、「式」を木としてとらえたとき、その表現方法と出力方法の関係を調べる。また、帰納的定義と再帰呼出の関係についての理解を深めることも目標とする。

システム1（後藤） [数値計算入門]

マルコフ連鎖（行列のかけ算）、音声のデジタル符号、静止画像の表現方法について学ぶ。そしてそれらを題材とし、簡単な数値計算を行うプログラムを作成し結果を考察することをレポート課題とする。

システム2（長谷川） [主観と客観の狭間におけるモデル化]

システム3（Keeni） [人工知能入門]

人工知能という分野で現在行なわれている議論を理解するための基礎知識を提供する。ここで基礎知識とは、「こういうものがある」というような知識ではなく、「なぜそのような考えが生まれたのか」という疑問に答えるような知識のことである。人工知能を問題解決という観点からとらえ、問題を解決するということはどういうことか、そのためになにが必要になるかといったことから以下の3つのテーマについて説明し、課題を出す。

- 問題解決
- 探索
- 記号論理

オペレーションズ・リサーチ（佐々木（美）） [線形計画法]

線形計画法の基礎を学ぶ。初回は線形問題の定式化、シンプレックス法例題をまじえて解説する。

後半の2回は、線形計画法のソフトウェアパッケージを用いて実際の問題を解く実習を行う。課題は、定式化等の問題と、実際に線形計画法の問題を解く問題との両方を課す。

【講義計画】 情報実習Ⅱでは、数学、システム1、システム3の3つの講義・実習を行う。

情報実習Ⅰでは、ガイダンスの後、統計学、オペレーションズ・リサーチ、システム2の3つの分野の講義・実習を行う。詳しい内容は、第1週目の講義で案内する。

【評価方法】 各担当教員の評価を総合して評価する。ただし、各担当教員の評価と、それらから総合評価を決定する方法は、それぞれ以下の通りである。

各担当教員の評価：

それぞれ、X、F、C、B、A、A+のいずれかの評価をする。

レポートの提出がなければX。最低の要件を満たさないレポートはFである。

情報実習Ⅰでは、最初に行う文書作成の実習も他の分野と同様に評価する。

総合評価：

各担当F、C、B、A、A+をそれぞれ45、65、75、85、95点とし、その合計点を用いて次のように決める。

X：Xが2つ以上

F：Xが1つまたはFが2つ以上、合計点が195点未満。

C：CCCあたりを想定し——195点以上

B：CBBあたりを想定し——215 点以上
A：BAAあたりを想定し——245 点以上
A＋：AAA＋あたりを想定し——265 点以上
担当分野数の変更にともない、算出方式の変更があり得る。
なお、情報実習ⅠとⅡの単位は別であるので、Ⅰの成績が不可であってもⅡは履修できる。

【テキスト】 各担当教員がプリント等を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75121	情報演習Ⅰ	必	3	4	後期	木村 美善
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 「統計学、多変量解析法とその応用」

【講義内容】 このゼミでは現代統計学の諸理論をさらに進んで学ぶとともに、コンピュータを活用して統計学の幅広い応用について研究するつもりである。演習Ⅰでは共通のテキスト・論文・資料（英語文献も含む）を学びながら同時にコンピュータを利用して統計的方法の応用について共同研究する。コンピュータによる統計的分析についてはデータ解析とグラフィックスのための対話型環境である「S-PLUS」や「SPSSX」などの統計パッケージを利用する。卒論のテーマは統計学や多変量解析法の幅広い応用分野の中から選択してもらい、数名のグループによる卒論研究も奨励したい。研究対象の中には教育・心理や世論調査におけるトピックスも含まれる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75122	情報演習Ⅰ	必	3	4	後期	真野 芳久
他の科目との関連	4 年次演習Ⅱ および卒業研究を履修するための前提科目である。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 異なる曜日に週2回行い、2つの異なるテーマを並行して進める。1つは、プログラミング言語の世界の全体像を把握することを目的として、プログラミングパラダイムによって異なる言語機能の本質を探索。他の1つは、大規模プログラミングの実際を学ぶもので、与えられたテーマを実現するプログラミング過程を実践してもらう。

【講義計画】 第1のテーマについては、適当なテキスト（未定）を読み進める。手続き型言語に見られる本質的な言語機能から始め、オブジェクト指向型言語、関数型言語、論理型言語へと進む。

第2のテーマについては、プログラミング言語Cの知識が必要であるので、Cの概要説明から始める。その後、いくつかのグループに分かれて、大規模プログラミングの実践的学習を行なう。

【評価方法】 レポートによって評価する。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75124	情報演習Ⅰ	必	3	4	後期	澤木 勝茂
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 オペレーションズ・リサーチ

【講義内容】 ORの種々のモデルや手法について確率モデルを中心に勉強する。3年次では、数学的な基礎訓練に重点を置き、特定のテキストの演習問題を次から次へと解く方式でゼミを運営する。マルコフ決定課程とそ

の応用、待ち行列とその応用、ゲーム理論とその応用、ファイナンス工学、信頼性理論などについて卒業論文の指導を受けることができる。

- 【講義計画】 (1) テキストの演習問題を各自に発表してもらうが、各テーマや章の内容については質疑応答で演習の授業を進める。
 (2) 春期・夏期休暇中に2泊3日程度の合宿を行う。
 (3) 1年間の演習を通して卒業論文のテーマを見つけるように指導をするので、学生はその心積りで授業に参加してほしい。
 (4) 3年次の夏休み期間中に文書清書システム「JLATEX」を修得しておくこと。レポートや卒論はこのJLATEXによるハードコピーのみ受付ける。

【評価方法】 授業中の発表および質疑応答の実績を加味したレポートの成績との総合評価に基づく。

【テキスト】 未定（履修予備登録者の意見を参考にして夏までに決定する。）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75125	情報演習Ⅰ	必	3	4	後期	穴太 克則
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 確率モデルとその応用

【講義内容】 確率・統計を縦軸とし、その応用として自然科学・社会科学における確率モデル・最適化モデルを横軸に勉強する。3年次は縦軸を中心に基本的な数学的理解を深めることを目的に、確率論と統計の入門的内容を勉強する。

【講義計画】 「理論－例題－演習」のサイクルを繰り返して進める。3～4人のグループ毎に関連する問題に取り組む演習を行う。
 「理論」においては定義・記号・概念・定理・証明を曖昧でなく、意味において明晰に理解する力を鍛錬する。
 「例題」においては理論に沿った具体的な問題を解くモデルを提示する。
 「演習」においては、問題演習を通じて、理に適った思考力と問題解決能力を鍛錬する。
 勉強に対してはひたむきかつ朗らかに取り組む人を歓迎する。

【評価方法】 総合的に評価する。

【テキスト】 確率モデルの初歩のテキストを予定している。参考書も講義で提示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75126	情報演習Ⅰ	必	3	4	後期	後藤 邦夫
他の科目との関連	情報演習Ⅱを履修するための前提科目。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 通信ネットワークと性能評価

【講義内容】 通信ネットワーク、計算機システム、交通システムなどを題材にとり、システムの性能評価の手法の基礎を学ぶ。演習Ⅰでは、ORの1分野である待ち行列理論の基礎と簡単なプログラミング演習を行い、演習Ⅱ、卒業論文に取り組む能力を養成する。さらに、ネットワークでの情報入手／提供方法と英語の読み書き能力の充実をはかる。

このゼミでは理論面を重視し、計算機は道具として用いるので、主に計算機自体、プログラミング自体に興味を持つ者には不向きである。理論的側面を重視するので英語、微積分、確率の基礎能力が必要である。一方で、プログラミングについては主に宿題として演習を行い講義時には詳しく説明しないので、自分で本を読み勉強する姿勢が不可欠である。また、4年次では卒業研究のために夏休み中もゼミを行うので、楽をしたい者にとってはこのゼミは不向きである。夏合宿等は全員参加を原則とする。電子メールは毎日読むこと。

具体的には、

0. ネットワークアプリケーションの使い方を覚える。英語の各種オンライン文書の読み方。
 1. 待ち行列システムの教科書（英語）の講読と、練習問題の解答。（順に発表）
 2. 電子メールの発着信、ドキュメント清書など計算機の操作の練習と簡単なプログラミング演習（待ち行列、シミュレーション、通信アプリケーション）。使用言語は、C、Pascal、Perl、Javaなど（宿題中心）。
 3. 卒業研究の分野別グループ（性能評価解析、シミュレーション、通信アプリケーション）に分かれ勉強会を行う（ゼミ時間外にもやります）。
 などを取り扱う。週2回ずつあり、一回は待ち行列、通信ネットワークに関する英文テキストの輪講、他の一回は、プログラミング関連の実習とする。その他ゼミに関する情報は、
 URL: <http://www.nanzan-u.ac.jp/~goto/>
 から探して下さい。

- 【講義計画】
1. オリエンテーション、資料配布、各種委員の決定
 2. - 12. 教科書の輪講（確率過程、待ち行列）
 13. 卒論テーマについて
 - プログラミング実習の部
 - 1-2. はじめてのcプログラム
 - 3-4. Unixプログラミング環境
 - 5-6. Make、日本語文字コード
 - 7-8. 通信プログラミング実習
 - 9-10. 他のプログラミング言語
 - 11-12. その他のツール（Perl等）
 13. まとめ

- 【評価方法】
- 簡単なプログラミング練習、輪講テキスト要約のレポートを毎回
 レポート試験1回：卒業研究のための勉強の成果をまとめ清書
 その他、出席状況、発表の出来により総合評価する。

- 【テキスト】
- 教科書：M. Schwartz, Telecommunication Networks: Protocols, Modeling and Analysis, Addison-Wesley, 1987
 その他、適宜資料を配布、ネットワークでの資料入手を指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75127	情報演習Ⅰ	必	3	4	後期	松田 眞一
他の科目との関連						他学科 履修 不可 重複 履修 不可

- 【副 題】 応用統計学

- 【講義内容】
- 現代統計学の応用範囲は広い。様々な分野での統計学の実態をつかむため文献調べとその発表を中心として進めていく。また、統計的手法の実践としてプログラミングも含めたコンピュータの利用を検討していく。最終的にはそれらを総合して卒業論文に向けたテーマを探していくのが目的である。

- 【講義計画】
- 基本的にはグループで研究・発表してもらう。学生の自主性を尊重して取り扱うテーマは特に絞らず、統計学に関するものを広く扱う。テーマ選定の期間をおいた後はグループごとの研究・発表・討論を数回繰り返し、最後にそれぞれの選んだテーマに関するレポートを提出してもらう。

- 【評価方法】
- 出席・発表とレポートを総合して評価する。

- 【テキスト】
- 特にこちらからは指定しない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者			
75128	情報演習Ⅰ	必	3	4	後期	野呂 昌満			
他の科目との関連	情報処理、プログラミング、プログラミング言語処理、オペレーティングシステム、ソフトウェア科学、ソフトウェア工学、通信システム、アルゴリズム論				他学科履修	不可	重複履修	不可	

- 【講義内容】
- オブジェクト指向計算とその応用について研究するための基礎を学ぶ。

【講義計画】 オブジェクト指向関係の本を輪講する。C++やSmalltalk 80 など言語の話を入門として扱う。

【評価方法】 順番で発表を行って貰う。その際の理解の度合い、わかりやすさなどを成績をつける判断基準とする。

【テキスト】 適宜指定。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75129	情報演習 I	必	3	4	後期	鈴木 敦夫
他の科目との関連	数理計画法 I・II、システム工学 II・III			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 オペレーションズ・リサーチ (OR)

【講義内容】 線形計画法、ネットワーク計画法、整数計画法、非線形計画法をテキストに従って学びながら、OR的なアプローチ、ものの見方を身につけていく。4 年次には、それを生かして、身近な問題をORの手法を用いて解き、卒論の題材としていく。昨年度までの卒論のテーマをいくつかピックアップすると；名古屋市の公共交通網に関する研究、ボロノイ図を用いた最適配置問題の研究、交通流の割当問題の研究、最適配送ルートの研究、駅の位置決め問題の研究。

【講義計画】 線形計画法（6 週）、ネットワーク計画法（2 週）、整数計画法（2 週）、非線形計画法（2 週）の予定。講義は輪読形式である。当番の学生は十分な予習が必要である。予習が十分でないと思なされた学生は、低い評価を与えられるであろう。

【評価方法】 当番時の発表の出来と、学期末の試験（3 時間の予定）で評価する。

【テキスト】 H.M. ワグナー著、森村、伊理監訳、鈴木、長谷川訳『オペレーションズ・リサーチ入門 1』（培風館）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75130	情報演習 I	必	3	4	後期	宮元 忠敏
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 数式処理ソフトを使った数学的活動の探求

【講義内容】 数式処理ソフトを使って既知の数学的事実の確認を行うほか、この強力な手段を自然な形で数学的活動に利用する方法を探求する。また、この方法により得られる新鮮な数学的事実を味わう。より具体的には、次のような演習を行う。

1. 数式処理ソフト Mathematica への入門（ノートブックの利用）
2. 組み込み関数を単発で活用する演習
3. 複数の組み込み関数を組み合わせて利用する演習
4. 簡単なプログラミングをともなう Mathematica 上での演習
5. 数学的トピックの Mathematica 上での構築とその可能性の探求

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75131	情報演習 I	必	3	4	後期	長谷川 利治
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 システムモデリング 1

【講義内容】 システムダイナミクス手法を用いたモデリング、シミュレーションについての基礎を講述し、与えら

れた問題に対するモデル化を行う。

【講義計画】 講義に続き、モデル化の演習を行う。

【評価方法】 出席・発表・レポートを総合して評価する。

【テキスト】 特に指定しない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75132	情報演習Ⅰ	必	3	4	後期	鳥居 達生
他の科目との関連	情報科学概論B、プログラミングⅠ、Ⅱ			他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 数値解析、数値計算法を研究し応用する基礎を学ぶ。
また、数値計算法のプログラミング技術を得得する。

【講義計画】 数値計算法、数値解析に関するテキストを輪講する。
また、学んだことをプログラミングして、発表・討論する。

【評価方法】 順番に発表する。発表態度、理解度によって評価する。

【テキスト】 適宜指定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75133	情報演習Ⅰ	必	3	4	後期	佐々木 克巳
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 数理論理学とその応用

【講義内容】 人間の数学的、論理的思考を形式的に扱うための理論を学ぶ。ここでは基礎的な内容を扱うが、文献講読を中心に行うことにより、数学の文献を正確に読みこなす能力を身につけ、個別に選んだテーマの研究を個人ですすめるための準備をおこなうのが目的である。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75146	情報演習Ⅱ	必	4	4	通年	穴太 克則
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 確率モデルとその応用

【講義内容】 3年次の情報演習Ⅰでの確率・統計を基礎として、その応用的内容である自然科学・社会科学に現れる確率モデル・最適化モデル・統計モデルを勉強する。当然のことながら「卒業研究」とリンクする。

【講義計画】 「理論－応用モデル－演習」のサイクルを繰り返して進める。3～4人のグループ毎に関連するモデルに関する問題に取り組む演習を行う。
「理論」においては定義・記号・概念・定理・証明を曖昧でなく意味において明晰に理解する力を鍛錬する。
「応用モデル」においては、現象を数学という言葉を用いて、理論に沿って定式（モデル）化し解析する例を提示する。
「演習」においては、現象を確率モデルというまなざしで捉え、定式（モデル）化する力と自らの頭を

使って解析する力と意味を吟味する力を鍛錬する。

【評価方法】 総合的に評価する。

【テキスト】 現在未定。参考書は講義で提示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75147	情報演習Ⅱ	必	4	4	通年	後藤 邦夫
他の科目との関連	原則として卒業研究とともに履修する。「通信システムⅠ・Ⅱ」、「シミュレーション」を同時あるいはすでに履修していることが望ましい。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 通信ネットワークと性能評価

【講義内容】 「卒業論文」とともに卒業研究のための講義である。「卒業論文」では、個人指導を中心とするのに対し、演習Ⅱでは、ゼミとしてのまとまりのもとに、通信ネットワーク、計算機システム、交通システムなどに関して、ゼミ生が各々自分の選択した課題に関して発表を行なう。
卒業研究のために夏休み中もゼミを行うので、楽をしたい者にとってはこのゼミは不向きである。夏合宿等は全員参加を原則とする。例え就職活動のためとはいえ、欠席は欠席であり、欠席した時は必ずその分の勉強を自分で補うこと。電子メールは毎日読むこと。

【講義計画】 ガイダンス
1. オリエンテーション、資料配布、各種委員の決定
2-4. 第1回発表（各自が卒論でやりたいことについて）
5-7. 第2回発表（各自の卒論テーマと具体的見通しについて）
（卒論テーマの決定と届出）
8-10. 第3回発表（各自の卒論における具体的問題解決の方法、練習課題の進展状況について）
11. 卒論の書き方、中間発表の原稿作成法、発表の方法
夏休みサバゼミ（各グループ6回程度、各自の問題解決のための勉強会）
9月上旬に夏合宿（演習Ⅰと合同、ゼミ内卒論中間発表会）
卒業論文中間発表会（学科）
13. オリエンテーション、中間発表会の反省
14. 卒論目次作成
15-18. 第4回発表
19. 第1回卒論下書き提出
20-21. 第5回発表
22. 第2回卒論下書き提出
23. 個人指導

【評価方法】 卒業研究のゼミ内での中間報告（各自年間5回程度）
上記課題（レポート）、その他の宿題、出席状況、発表の出来により総合評価する。

【テキスト】 適宜資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75148	情報演習Ⅱ	必	4	4	通年	野呂 昌満
他の科目との関連	演習Ⅰ、その他情報処理関連科目。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 オブジェクト指向計算

【講義内容】 卒業論文と緊密に関連する内容を取り上げる。卒業研究を行なうために必要な技術・知識を取り上げ説明する。

【講義計画】 発表形式と講義形式を併用する。毎回講義の前までに疑問点をまとめ、それについて講義形式で解説・説明した後、発表形式にし、質疑応答を含めて疑問点の解消を図る。

【評価方法】 毎回必ず出席すること。卒業論文と関連した内容なので卒業論文と同等の成績をつける。

【テキスト】 適宜指定

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
75151	情報演習Ⅱ	必	4	4	通年	長谷川 利治
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副題】 システムモデリング2

【講義内容】 システムダイナミックス手法を大規模システムの解析・評価に応用する技法について講述し、計算機シミュレーションを行う。

【講義計画】 講義に引き続き、特定の演習問題に対する計算機シミュレーションについての基礎を行う。

【評価方法】 出席、レポート等を総合して評価する。

【テキスト】 島田俊郎編「システムダイナミックス入門」日科技連

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
75167	卒業研究	必	4	4	通年	後藤 邦夫
他の科目との関連	原則として情報演習Ⅱとともに履修する。「通信システムⅠ・Ⅱ」、「シミュレーション」を同時あるいはすでに履修していることが望ましい。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副題】 通信ネットワークと性能評価

【講義内容】 「演習Ⅱ」とともに卒業研究のための講義である。「演習Ⅱ」では、ゼミとしてのまとまりのもとに、ゼミ生が各々自分の選択した課題に関して発表を行なうのに対し、「卒業論文」では、個人指導を中心とする。
卒業論文の分野は、下記の3つに大別できる。
1. 解析的手法による性能評価（数学、確率、プログラミング、マルコフ連鎖、通信ネットワーク）
2. シミュレーションによる性能評価（モデリング、確率、プログラミング、通信、交通システム）
3. 通信ソフトウェア（マルチメディア、プログラミング、ネットワーク）
個人指導、連絡は電子メールで行なうので、電子メールは毎日読むこと。

【講義計画】 （情報演習Ⅱの日程参照のこと）

【評価方法】 学科で行なう卒業論文中間発表会、卒業論文公聴会、卒業論文により総合評価する。

【テキスト】 適宜資料を配布する。オンラインでも提供する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
75171	卒業研究	必	4	4	通年	長谷川 利治
他の科目との関連	原則として情報演習Ⅱとともに履修する			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副題】 システムのモデル化、解析、評価

【講義内容】 個人指導により、ある特定のテーマについて履修する。予定しているテーマは、通信・交通システムを

対象である。

【評価方法】 学科で行う卒業論文中間発表、同公聴会、卒業論文により総合評価する。

【テキスト】 適宜資料配布、参考書等を指定する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75401 75402 75411 75412	解析Ⅰ 1・Ⅰ 2・Ⅱ 1・Ⅱ 2	選・必	1	各2	前期 後期	松澤 忠人
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 基礎微積分学

【講義内容】 微分積分は線形数学と並んで数学の基礎をなすものであるが、それ自体理論としても非常に美しい側面をもっている。又、応用上も非常に重要である。
本講義では、できるだけ原理、核心を直感的につかめるように配慮する。問題演習は、論理的思考について、具体的に訓練する機会となるので、授業中の問題演習にも重点をおきながら進むこととする。

【講義計画】 下記のような順序で進む。
①実数の性質
②数列
③微分、導関数
④積分
⑤微積分法の応用
⑥偏微分法
⑦接平面
⑧関数の極値（多変数の場合）
⑨重積分
⑩線積分とグリーンンの定理

【評価方法】 各期末の定期試験と講義中の演習も重視する。

【テキスト】 松澤・原・小川著、理工系の『基礎微積分学』（学術図書）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75421 75422 75431 75432	線形代数Ⅰ 1・Ⅰ 2・Ⅱ 1・Ⅱ 2	選・必	1	各2	前期 後期	鳥居 達生
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 線形代数は、数学の基礎知識として必須であり、応用上も重要な課題である。
ベクトルおよび行列の計算に習熟するだけでなく、それらをユークリッド空間上の幾何学として解釈できるようにする。

【講義計画】 前期 1. ベクトルとベクトル空間
2. 行列と線形写像
3. 連立1次方程式とその解法
4. 行列式
後期 1. ユークリッドベクトル空間の幾何学
2. 固有値問題
3. 2次形式とその応用

【評価方法】 定期試験および小テスト

【テキスト】 笠原昭司 線形代数学、サイエンス社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75441 75442	確率論 1・2	選・必	1	各2	前期	後藤 邦夫 鈴木 敦夫
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 確率論の基礎を学び、オペレーションズリサーチ、統計学などの専門科目に必要な、知識、考え方を身につけるのが本講義の目的である。講義はテキストにしたがい、以下の項目の順に進める。各項目に2、3週間を費やす予定である。

【講義計画】 1. 確率空間
2. 確率変数
3. 確率変数の特性値
4. 母関数と特性関数
5. ポアソン過程
特に理工学の観点から応用を十分に考慮に入れた講義を行う。3回程度簡単な課題を出す。

【評価方法】 課題レポート、期末試験をそれぞれ50%の重みとして評価する

【テキスト】 伏見正則著「確率と確率過程」講談社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75451 75452	統計的方法Ⅰ 1・Ⅰ 2	選・必	1	各2	後期	松田 眞一 木村 美善
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 現代統計学の基本的概念と手法について講義し、統計的なものの見方・考え方を理解してもらうことを目的とする。統計的データの記述法について学んだ後、標本に基づく推測統計学へと進む。

【講義計画】 1. 統計的方法とその意義
2. 度数分布表と各種統計値
3. 相関と回帰
4. 時系列データ
5. グラフ表現
6. 確率と確率変数
7. 多変量確率変数
8. 標本分布

【評価方法】 リポート20%、試験80%の割合で評価する。

【テキスト】 白旗慎吾著『統計解析入門』（共立出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75461 75464	情報処理Ⅰ および演習 1～4	選・必	1	各3	前期	(講義) 真野 芳久 (演習) 宮澤 元 金 知俊 Kanad Keeni 蜂巢 吉成
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 情報管理学科学生が初めて計算機を学ぶ授業科目である。この授業は、半期3単位の科目である。講義と演習とからなっており、全員1クラスで講義を聞くことと、3クラスに分割したクラスでの演習を受けることの両方が要求される。

講義では、UNIXの使い方など、4年間道具として計算機を使いこなすための基礎知識を扱う。演習では、実際に計算機を使って知識を確認する。

【講義計画】 以下の内容について講義を受け、さらに演習を受けることになる。

- (1) 計算機の基本構造や動作原理
 - ・計算機システムの種類、構成
 - ・計算機内部での命令やデータの表現方法
 - ・機械語やアセンブリ言語の具体例
- (2) 計算機を利用する上で必要な諸概念
 - ・ファイル、コマンドの概念と使い方
 - ・オペレーティングシステム、エディタ、言語処理系などのソフトウェアの役割と使い方
 - ・ネットワークを介した情報交換、情報入手の方法
 - ・プログラミングの意味と基礎
- (3) 情報科学を学ぶための基礎知識
 - ・情報量の概念
 - ・情報の表現、特に2進数による数の表現や文字の表現

【評価方法】 講義では最後に試験を実施する。演習では何回かのレポートを要求する。これらの試験とレポートとによって総合評価する。

【テキスト】 鬼頭繁治『ユーザのためのUNIX』(サイエンス社)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
75471 { 75474	情報処理Ⅱ および演習 1 ～ 4	選・必	1	各3	後期	(講義) (演習)	野呂昌満 宮澤元俊 金知俊 Kanad Keeni 蜂巢吉成	
他の科目 との関連	情報処理Ⅰ および演習履修で得た知識を基に、プログラミングⅠ、Ⅱの基礎を学ぶ。				他学科 履 修	不可	重複 履 修	不可

【講義内容】 プログラミングの基礎を講義する。プログラミング言語Pascalを使って、簡単なアルゴリズムのプログラムを書き、コンパイル、実行できるようになることを目標とする。演習では、毎回問題を取り上げ、そのプログラムを設計・作成することでプログラミングの能力の向上を目指す。

【講義計画】 以下の内容で講義を行い(それぞれについて1、2回)、対応する実習を行なう。

1. 代入文・実数型
2. 選択・整数型・論理型
3. 繰り返し
4. 配列(1次元)
5. 配列(2次元)
6. 手続き・関数
7. 文字型
8. 集合型
9. ファイル
10. 文字列型

【評価方法】 演習は適宜レポートを課する。すべて提出が単位取得の条件。講義は定期試験を行う。テストではおもにプログラミングの知識について考査する。

【テキスト】 真野芳久著『Pascalプログラミングの基礎』(サイエンス社)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75501	解析Ⅲ	選・必	2	2	前期	鳥居 達生
他の科目との関連	解析Ⅰ、Ⅱ			他学科履修	可	重複履修不可

【副 題】 応用解析学

【講義内容】 微積分学を学習した後、さらに進んだ微積分学とその応用という観点から、複素関数論を講義する。関数の解析性と特異性について学び、フーリエ解析、ラプラス変換など修得できるようにする。

【講義計画】

1. 複素微分
2. 複素積分
3. 級数展開（テイラー展開、ローラン展開）
4. 留数とその応用

【評価方法】 定期試験および小テスト

【テキスト】 阪井 章 応用解析、共立出版

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75511 75512	情報数理Ⅰ 1・Ⅰ 2	選・必	1	各2	後期	佐々木 克巳
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修不可

【講義内容】 現代数学で用いられている基礎概念について学ぶ。最初に古典論理を導入し、基礎概念を表現するための規則を学ぶ。その上で、「集合」、「写像」、「関係」の具体的な概念を扱う。

【講義計画】

- 第1週 序
- 第2週 論理のことば（命題論理）
- 第3週 論理のことば（「すべて」、「ある」、「～でない」）
- 第4週 集合（集合の表し方）
- 第5週 集合（集合の演算）
- 第6週 集合（証明の例）
- 第7週 集合（集合の演算の拡張）
- 第8週 写像（写像の表し方）
- 第9週 写像（単射、全射、全単射）
- 第10週 写像（逆写像）
- 第11週 関係（同値関係）
- 第12週 関係（商集合）

【評価方法】 定期試験、出席、毎週の講義の理解度などが評価の対象である。詳しい評価方法は第1週目の講義で説明する。

【テキスト】 プリントを配布する。
参考文献：細井勉、「集合・論理」、共立出版
細井勉、「わかるイプシロン・デルタ」、日本評論社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75513 75514	情報数理Ⅱ 1・Ⅱ 2	選・必	2	各2	前期	佐々木 克巳
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修不可

【講義内容】 情報数理Ⅰに引き続いて、「順序」、「代数系」について講義する。

【講義計画】 第1週 序
第2週 順序（ハッセの図式）
第3週 順序（最大、最小）
第4週 順序（上限、下限）
第5週 束
第6週 代数系（代数系の定義と例）
第7週 代数系（同形な代数系）
第8週 群（結合律）
第9週 群（単位元、逆元）
第10週 群（群における方程式）
第11週 体
第12週 まとめ

【評価方法】 定期試験、出席、毎週の講義の理解度などが評価の対象である。詳しい評価方法は第1週目の講義で説明する。

【テキスト】 プリントを配布する。
参考文献：細井勉、「集合・論理」、共立出版
細井勉、「情報科学のための代数系入門」、産業図書

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75521	オペレーションズ・リサーチ概論Ⅰ	選・必	2	2	前期	澤木 勝茂
他の科目との関連	数理計画Ⅰ・Ⅱ、確率モデルなどの前提科目。			他学科履修	可	重複履修不可

【副 題】 科学的意思決定の基礎

【講義内容】 企業などの組織における種々の意思決定のための手法とモデルについて平易に解説する入門コースである。問題解決のための数量的な分析方法と現実の問題を数学的にモデルとして定式化する手順や考え方について理解を深めるように講義内容について工夫をしたいと考えている。

【講義計画】 内容として主なトピックスは次の通りである。
（1）オペレーションズ・リサーチとは何か
（2）線形計画法とその応用
（3）動的計画法とその応用
（4）在庫管理
上記のトピックスについて講義を行った後で、具体的な例題や演習問題を解いたり宿題を課することになる。

【評価方法】 試験と宿題の成績によって評価をしているが、その比重は概ね7対3を予定している。出席は評価にカウントしていないが、出席率と成績との正の高い相関関係を過去のデータは示している。

【テキスト】 小和田・沢木・加藤『OR入門－意思決定の基礎』（実教出版、1995）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75531	統計的方法Ⅱ	選・必	2	2	前期	木村 美善
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修不可

【講義内容】 「統計的方法Ⅰ」の内容に引き続いて、推測統計学の学習へと進む。現代統計学の基本理論と考え方、応用の仕方について理解してもらうことを目的とする。

【講義計画】 1. 確率と確率変数
2. 標本分布

3. 点推定
4. 区間推定
5. 検定
6. 1 標本問題の統計解析
7. 2 標本問題の統計解析
8. 適合度検定と分割表
9. 帰帰と相関

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75541	プログラミングⅠ	選・必	2	2	前期	野呂 昌満
他の科目との関連	「情報処理Ⅱおよび演習」に引き続く科目で、ここで学んだことを基に「プログラミングⅡ」でさらにプログラミングについて深く学ぶ。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 プログラミング言語Pascalを用いたプログラミングに関して、「情報処理Ⅱおよび演習」をさらに発展させた内容を学ぶ。

ここで現われる新たな言語機能として、集合型、列挙型、レコード型、ポインタ型を使ったリスト構造や木構造等の動的データ構造、等がある。

これらの言語機能の学習、および実際にプログラミングを通してそれらを活用する手法を学ぶ。また、アルゴリズムやデータ構造、プログラミングの考え方についても、触れる。

【講義計画】 上述の言語機能について、その意味するところ、使い方などを、プログラム例を示して、順次学んでいく。

必要に応じて応用問題にも取り組み、それに関連してアルゴリズムやデータ構造の話題にも触れる。

プログラミングを理解しその能力をつけるには、講義で学んだことを理解するだけではなく、自ら積極的にプログラミング作業を行なうことも必要である。講義の中でプログラミング実習を行なう時間的余裕はほとんどなく、実習は各自の自習時間の中で行なってもらふ。そのために、頻繁に課題を出す。十分な自習時間が必要である。

【評価方法】 レポート課題と定期試験によって評価する。レポート課題では主にプログラミング能力を評価し、定期試験では主にプログラミングに必要な知識を評価する。

【テキスト】 真野芳久著『Pascalプログラミングの基礎』（サイエンス社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75551	プログラミングⅡ	選・必	2	2	後期	真野 芳久
他の科目との関連	「プログラミングⅠ」までに学んだPascalプログラミングに関する知識を前提とする。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 Pascalプログラミングに関する知識を前提として、大規模プログラミングに必要な考え方、知識を学ぶことを目標とする。

ここに含まれる内容として、

- ・基本的なアルゴリズムとデータ構造
 - ・大規模プログラミングの問題点の把握
 - ・プログラミング方法論に関する諸概念
 - ・モジュール化、データ抽象などに基づくプログラム設計法
- が含まれる。実際のプログラミングを通して、これらの考え方を応用する。

【講義計画】 Pascalプログラミングの復習および応用から始める。この過程を通して大規模プログラミングの問題点を理解する。問題点を克服するための新たな考え方を順次紹介し、それらを利用したプログラム設計、プログラミングを行なってもらふことで、理解を深める。必要に応じて、アルゴリズムやデータ構造の話題にも触れる。

プログラミングを理解しその能力をつけるには、講義で学んだことを理解するだけではなく、自ら積極的にプログラミング作業を行なうことも必要である。講義の中でプログラミング実習を行なう時間的余裕はほとんどなく、実習は各自の自習時間の中で行なってもらふ。そのために、頻繁に課題を出す。十分な自習時間が必要である。

【評価方法】 レポート課題と定期試験によって評価する。レポート課題では主にプログラミング能力を評価し、定期試験では主にプログラミングに必要な知識を評価する。

【テキスト】 真野芳久著『Pascalプログラミングの基礎』（サイエンス社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75601	オペレーションズ・リサーチ概論Ⅱ	選	2後~4	2	後期	穴太 克則
他の科目との関連	決定分析、確率モデルへの入門科目			他学科履修	可	重複履修不可

【副 題】 科学的意思決定の基礎

【講義内容】 前期のオペレーションズ・リサーチ概論Ⅰに引続く科目である。前期では確定的な状況の下での意思決定の手法とモデルを中心に講義したが、後期では確率的（不確実）な状況の下で意思決定モデルを中心に講義する。しかし、講義の内容としては前期とは独立であるので、OR概論Ⅰの履修を前提とする必要はない。

【講義計画】 講義でカバーするテーマは次の通りであり、各テーマは概ね1ヶ月（4回～5回）程度の時間配分を考えている。
 （1）意思決定分析とゲームの理論
 （2）日程計画（PERTとCPM）
 （3）待ち行列の理論
 講義の進捗状況によっては非線形計画法や確率計画法についても講義する予定である。

【評価方法】 試験と宿題の成績によって評価する。前期の欄も参照されたい。

【テキスト】 前期と同一のテキストを使用する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75603	オペレーティングシステム	選	2後~4	2	後期	宮澤 元
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修不可

【講義内容】 オペレーティングシステムとは計算機システムにおいて、計算機のハードウェアと計算機のユーザとの仲介を行うソフトウェアである。本講義では、オペレーティングシステムを含めた計算機システムの構成について概説した後、オペレーティングシステムの主要構成要素について順次解説する。UnixやWindowsなどの商用オペレーティングシステムについても随時取り上げる。また、オペレーティングシステム研究の最近の動向についても簡単に触れる。

【講義計画】
 1. 計算機システムの構成
 2. オペレーティングシステムとは
 3. プロセスとスレッド
 4. CPUスケジューリング
 5. プロセス間の協調
 6. 記憶管理
 7. 仮想記憶
 8. ファイルシステム
 9. ネットワーク
 10. 分散ファイルシステム
 11. プロテクションとセキュリティ
 12. 最近のオペレーティングシステム研究

【評価方法】 試験およびレポートで評価を行う。

【テキスト】 Abraham Silberschatz and Peter B. Galvin, "Operating System Concepts," fifth edition, Addison-Wesley Publishing Company, ISBN-0-201-54626-5.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75605	アルゴリズム論	選	2後~4	2	後期	金 知 俊
他の科目との関連	情報処理Ⅰ・Ⅱ			他学科履修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 アルゴリズムを設計、評価するための基礎的な知識を習得するのが講義の目標である。まず、アルゴリズムの評価に必要な数学的準備をし、アルゴリズムの代表的な手法を順次紹介していく。

【講義計画】 以下の項目について、各々2週間ずつ講義を行う。また、必要に応じて、関連する分野の話題を挿入することもある。

- ・アルゴリズムとは
- ・アルゴリズムの漸近的評価
- ・算法の紹介（貪欲算法）
- ・算法の紹介（分割統治法）
- ・算法の紹介（動的計画法）
- ・算法の紹介（分枝限定法）

【評価方法】 レポートおよび学期末に行う試験

【テキスト】 教科書：平田富夫、「電気工学入門シリーズ15 アルゴリズムとデータ構造」、森北出版、1990。
教科書の補足として授業中にプリントを配布する。
参考図書1：G. Brassard, P. Bratley, Algorithmics Theory and Practice, Prentice-Hall, 1988.
(邦訳：ジル・ブラスサル、ポール・ブラットレー、「アルゴリズム論理論と実際」足立暁生訳、東京電機大学出版局)
参考図書2：A. V. Aho, J. E. Hopcroft, J. D. Ullman, Data Structures and Algorithms, Addison-Wesley, 1983.
(邦訳：A. V. エイホ、J. E. ホップクロフト、J. D. ウルマン、「データ構造とアルゴリズム」大野義夫訳、培風館)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75607	応用数学A	選	2後~4	2	前期	佐々木美裕
他の科目との関連				他学科履修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 「10個の椅子に10人が座る方法は何通りあるか？」といったような素朴な疑問が離散数学のはじまりであり、その応用分野は非常に広い。本講義では、離散数学の基本を身につけることを目的とする。
上記のような簡単な数え上げの問題からはじめ、応用として、グラフ理論や組合せ最適化問題についても触れる予定である。

【講義計画】 以下の項目について講義を行なう。

1. 集合
2. 関係
3. 順列と組合せ
4. グラフ理論
5. 組合せ最適化

【評価方法】 学期末の試験による。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75609	応用数学B	選	2後~4	2	前期	穴太 克則
他の科目との関連				他学科履修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 確率・統計モデルとその応用

【講義内容】 確率モデル・統計モデルについて講義する。

【テキスト】 使用しない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75611 75612	情報数理Ⅱ（95生用）1・2	選		各2	前期	佐々木克巳
他の科目 との関連	情報数理Ⅰの履修を前提とする。			他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 75513「情報数理Ⅱ 1」・75514「情報数理Ⅱ 2」を参照。

※情報数理Ⅱ 1・2は95年度生が修得した場合、学科選択科目となり、それ以外の学生が修得した場合は、学科選択必修科目となります。そのため、今年度情報数理Ⅱ 1・2を履修する学生は以下の通り科目登録して下さい。

情報管理学科 95 年生： 75611 情報数理Ⅱ（95生用）1 それ以外の学生： 75513 情報数理Ⅱ 1
75612 情報数理Ⅱ（95生用）2 75514 情報数理Ⅱ 2

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75613	現代数学概論	選	2後~4	2	前期	佐々木克巳
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 計算に関する数学的理論の基礎を講義する。数の概念から出発し、帰納的関数、チューリング機械を扱う。

【講義計画】 第1～2週 数学的準備
第3～4週 数の概念
第5～6週 原始帰納的関数
第7～8週 帰納的関数
第9～11週 チューリング機械
第12週 まとめ

【評価方法】 定期試験、出席、毎週の講義の理解度などが評価の対象である。詳しい評価方法は第1週目の講義で説明する。

【テキスト】 プリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75617 75619	幾何学概論Ⅰ・Ⅱ	選	2後~4	各2	前期 後期	下村 尚司
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 トポロジーを中心として

【講義内容】 トポロジー（位相幾何学）について学ぶ。ここで取上げる問題は、直感的理解が得られやすい、1、2次元のトポロジーについてである。トポロジーの基礎から学ぶので、特別な知識を前提にしない。
トポロジーとは、球面とトーラス（ウキブクロの形）のように、ある意味で決定的に異なる図形をのみ識別する学問である。例えばゴムで出来たボールは、球面の形をしているが、これをいくら引っ張ったり伸ばしたりしても、トーラスにはできない。同じように、部屋の中（3次元ユークリッド空間の一部）で、輪ゴムをどのように歪めても、結び目を作ることはできない。しかし、これらのことを厳密に証明しようとすれば大変であろう。そもそも「引っ張ったり伸ばしたり」と言うことの意味を厳密に定義する必要が

ある。これらを学ぶには同相写像について理解する必要があるが、その為には、位相空間について学んでおく必要がある。

この講義では、初学者のための授業であることに配慮しつつ、少しでもおもしろい話題を紹介できればと考えている。そのため進度は遅くなるかも知れないが、皆さんの積極的な質問などを期待したい。

- 【講義計画】
- 1、2：ユークリッド空間
 - 3、4：連続写像
 - 5：連結性
 - 6：コンパクト性
 - 7：位相同型
 - 8：閉曲線の巻数
 - 9、10：2次元の存在定理
 - 11、12：ボルスークの存在定理
 - 13：ベクトル場
 - 14、15：期末試験
 - 16、17：ジョルダンの閉曲線定理とグラフ
 - 17、18：オイラーの公式
 - 19、20：閉曲面
 - 21、22：閉曲面のオイラー標数
 - 23～25：閉曲面の連結和
 - 26～28：閉曲面の分類
 - 29、30：期末試験

【評価方法】 期末試験と授業中に適宜課すレポートによる。

【テキスト】 直感トポロジー、前原 潤 著、共立出版、1993年、2,100円

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75627	システム工学Ⅰ	選	2後~4	2	前期	鈴木 敦夫
他の科目との関連	オペレーションズ・リサーチ概論Ⅰ、Ⅱ			他学科履修	可	重複履修不可

【講義内容】 システム工学の基礎的な素養を身につけることを目的とする。システムを抽象的に記述するには、数理的な表現をとらざるを得ない。数理的な表現により複雑なシステムも、簡単な形で表現できる。この講義では、システムを数理的に表現し、それをいろいろな手法を駆使して解析する応用能力を身につけることを目標とする。

【講義計画】 使用するテキストに従って、以下の項目について、各々2週間ずつ講義を行なう。また、必要に応じて、関連する分野の話題を挿入することもある。

- ・システム工学の概念と数学的準備
- ・因果的モデル
- ・非決定論的システム
- ・システムの安定
- ・意思決定システム
- ・複数の意思決定者よりなるシステム

【評価方法】 学期末に行なう試験

【テキスト】 高原康彦著「システム論の基礎」日刊工業新聞社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75629	システム工学Ⅱ	選	2後~4	2	集中	杉原 厚吉
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修不可

【副 題】 システムの信頼性の評価とその向上技術

【講義内容】 ハードウェアよりソフトウェアの側面に重点を置いて、システムの信頼性を損なう原因とその対策について考える。特に、コンピュータでの数値計算誤差が原因となって生じる信頼性の低下に焦点を当てる。コンピュータでは数値は有限の精度でしか表現されないため、数値誤差が必ず生じる。この誤差がほんのわずかであっても、場合によってはとんでもない結果をもたらすことがある。そのような現象を、統計分析システム、数値解析システム、図形処理システムなどを例にとって分析し、それに対処するための諸技術を学ぶ。

【講義計画】 上記の内容を普通の講義形式で解説するとともに、誤差をもたらす悲惨な現象とその対策を体験するための演習も行なう。演習ではコンピュータプログラムを書いて走らせる課題も与えるから、何でもよいからコンピュータ言語の一つは使えることが、履修の条件である。

【評価方法】 演習のレポートおよび試験によって採点する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75631	システム工学Ⅲ	選	2後~4	2	集中	杉原 厚吉
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 システムの効率の評価とその向上技術

【講義内容】 コンピュータを含んだ形で構成されるシステムの効率の良さの測り方と、効率の良いシステムの作り方を学ぶ。ここで大切なことは、システムを作ったあとでその効率を測るのではなくて、「こんなシステムを作ってみよう」と構想を練る段階でその効率が見通せることである。そのために、まず基礎となる計算量の理論を学び、次の効率の良いシステムを作るための基本的な諸技術を学ぶ。また、どんなにがんばっても効率の良いシステムは作れないことのわかっている難問を逆に利用すると、「鍵を公開しても解読されない暗号法」や「パスワードを告げなくても正規のパスワード所有者であることを相手に納得させる方法」など、常識に反した情報保護技術が作れることも見る。

【講義計画】 上記の内容を普通の講義形式で解説するとともに、効率の良いシステムと効率の悪いシステムの差を体験するための演習も行なう。演習ではコンピュータプログラムを書いて走らせる課題も与えるから、何でもよいからコンピュータ言語の一つは使えることが、履修の条件である。

【評価方法】 演習のレポートおよび試験によって採点する。

【テキスト】 当日配布するプリント

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75633	情報科学概論A	選	2後~4	2	前期	長谷川利治
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 ファジィ理論

【講義内容】 社会科学への応用を念頭におき、ファジィ理論の限界と明白にしつつ、その特徴について講述する。

【講義計画】 教科書を用いながらも、ファジィ理論の基礎的な考え方をノートにより講義する。

【評価方法】 基本的には定期試験の結果により評価する。

【テキスト】 中島、竹田、石井著『ファジィ理論入門』裳華房

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75635	情報科学概論B	選	2後~4	2	後期	鳥居 達生
他の科目との関連	線形代数Ⅰ、Ⅱ、解析Ⅰ、Ⅱ、プログラミングⅠ			他学科履修	可	重複履修不可

【副 題】 数値解析、数値計算法

【講義内容】 数値解析および数値計算法は、デジタル計算機によって連続の世界を取り扱うために必要な理論と方法に関する学問である。また、数値計算法を計算機で実行することによりプログラミングの技術を習得する。

【講義計画】

1. 数値計算法の基礎
2. 関数計算のアルゴリズム
3. 数値積分
4. 連立1次方程式の解法
5. 非線形方程式の解法

【評価方法】 定期試験、授業参加度、小テスト

【テキスト】 杉浦 洋 数値計算の基礎と応用、サイエンス社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75637	制御理論	選	2後~4	2	前期	鈴木 正之
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修不可

【副 題】 「最適制御理論の概説と社会システムに対する応用」

【講義内容】 ダイナミカルシステムの表現方法としての微分方程式の簡単な解説を最初に行ない、ダイナミカルシステムとして制御システムを定義する。最適制御問題は、このダイナミカルシステムを人間が決めた目的（例えば利潤を最大にすることなど）に対し最適となる制御（方策）を決定することである。この様な最適制御を決定する方法として、変分法、ポントリヤーギンの最大原理、ダイナミックプログラミング（D.P.）等について解説する。
最後に最適制御理論の応用例として、社会システムにおける最適決定の例を述べる。

【講義計画】 上述の目標に向けて、

- ①関数の最大最小——静的最適制御問題
- ②ダイナミカルシステムの表現
- ③古典変分法
- ④ポントリヤーギンの最大原理
- ⑤ダイナミックプログラミング
- ⑥社会システムのダイナミカルシステム表現
- ⑦社会システムにおける最適決定

というプログラムにしたがって講義を行なう。

【評価方法】 レポート及び試験により評価を行なう。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75639 75640	情報論理Ⅰ1・Ⅰ2	選	2後~4	各2	後期	春藤 修二
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修不可

【副 題】 〔論理とは何か——記号論理入門〕

【講義内容】 計算機科学が人間の思考方法を問題にするまで進展した現在、論理学はこれ迄の、数学の一部、又は哲学の一部としての位置から、多くの人々の基礎教養となったといえよう。論理と数学との古くからの関わりから始め、19世紀末のいわゆる“数学の危機”の時代を経て論理学が数学化したことを、伝統的論理学とクラス論理を概観しつつ確認する。現代論理学の入り口まで到達することを目標とする。

【講義計画】 次の項目に従って授業を進める予定である。
 I. 論理と数学——論理も数学も古い学問であるが、ユークリッド原論にはアリストテレスを始めとして論理学の成果が色濃く反映している。
 II. 集合と論理——集合演算と論理、カントールの集合論、対角線論法、カントールのパラドクス
 III. 数学の危機——ラッセルのパラドクス、論理主義・直観主義・形式主義
 IV. 伝統的論理学——アリストテレスの三段論法、妥当な格式
 V. 記号化とクラス論理——ブールの業績、展開式とヴェン図
 VI. 現代論理学——数学の論理学から教養人の基礎知識へ
 予備知識を前提としないので他学科の学生の履修も可能である。

【評価方法】 基本的には定期試験の結果による。出欠も考慮に入れる。

【テキスト】 特に使用するものはありません。参考書については随時紹介します。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75641	情報論理Ⅱ	選	2後~4	2	前期	春藤 修二
他の科目との関連	情報論理Ⅰを前提とする			他学科履修	可	重複履修不可

【副 題】 〔現代論理学入門〕

【講義内容】 「情報論理Ⅰ」の内容を引き継ぎ、現代論理学を命題論理、述語論理の順に講義する。最後に多値論理、様相論理など“古典論理”以外のいろいろな論理について概観する。

【講義計画】 次の項目に従って授業を進める。
 I. 命題論理の意味論——恒真式、標準形
 II. 命題論理の構文論——ヒルベルト流公理体系
 III. 命題論理の構文論——ゲンツェン流公理体系
 IV. 命題論理のメタ理論——無矛盾性、完全性
 V. 述語論理——数学の形式化、伝統的論理学への適用
 VI. 述語論理の構文論——冠頭標準形
 VII. 述語論理の意味論と完全性
 たとえばド・モルガンの法則や排中律といった“論理的真理”を、何らかの基底から導くという考え方を理解してもらいたいと思います。
 この講義は若干の数学的素養を前提とする専門科目です。その意味は、「情報数理Ⅰ・Ⅱ」におけるような“形式的取扱いに慣れている”ということである。

【評価方法】 基本的には定期試験の結果によるが、授業において若干演習の要素を取り入れるつもりである。

【テキスト】 特になし。担当者はS. C. Kleene「Introduction to Meta-mathematics」North-Holland Publ. を参考に講義する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75645	社会調査法	選	2後~4	2	集中	村上 征勝
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修不可

【講義内容】 「日本人の国民性調査」や「意識の国際比較調査」などの実際の社会調査のデータを用いて、社会における種々の現象を解明するための情報の収集法およびその分析法について講義を行なう。

【講義計画】 ①社会調査とは何か
 ②標本抽出の理論と技法

③調査票・質問紙の作成

④調査結果の整理・分析

という順に講義を進めるが、特に②と④に時間を割く。

調査結果の分析において数式の使用は避け得ないが、それは最小限におさえ、分析の考え方の説明に重点を置く。したがって、数学および統計に関する予備知識は特に必要としない。

【評価方法】 試験を行なうが、集中講義となるので出席も重視して評価する。

【テキスト】 稲生勁吾編『新社会調査の基礎』（樹村房）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75647 75649	数理計画法Ⅰ・Ⅱ	選	2後~4	各2	集中	福島 雅夫
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 数理計画法はオペレーションズ・リサーチの中心的なテーマであり、経営や工学における意思決定の手法として、実際のさまざまな問題に適用されている。この講義では、数理計画法の代表的な手法である線形計画法の計算法、双体定理、感度分析について説明する。さらに、ネットワーク計画法、非線形計画法、整数計画法など、数理計画の重要な手法を説明する。

なお、この講義の内容は数学的になるので、情報管理学科以外の学生は登録にあたって注意すること。

【講義計画】 集中講義なので短期間にさまざまな方法や考え方を講義することになるが、受講者はその日に習ったことを復習すること。特に、講義中に示した具体例については、必ず自分の手で問題を解くなどして確実に方法を理解することが必要である。「数理計画法Ⅰ」、「数理計画法Ⅱ」とも最終授業時に試験を実施する。

【評価方法】 評価は原則として試験の成績に基づいて評価する。なお、出席を考慮することもある。

【テキスト】 福島雅夫著「数理計画入門」（朝倉書店）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75653	数理統計学B	選	2後~4	2	後期	松田 眞一
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 「統計学的方法Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを基礎として統計学の学習をさらに進める。情報化社会において実用的に用いられている現代統計学の理論と応用についての適用能力を身につけてもらうことが目的である。主として、具体的な検定の諸問題（正規分布に関する検定の発展、分散分析）について述べる。

【講義計画】 1項目をだいたい1回の講義で進める。

1. 正規分布の性質（復習）
2. 正規分布の分散の検定（1標本問題）
3. 正規分布の分散の検定（2標本問題）
4. 予備検定を行う正規分布の平均の検定
5. 適合度検定
6. 分割表
7. 一元配置分散分析
8. 二元配置分散分析（繰り返しのない場合）
9. 二元配置分散分析（繰り返しのある場合）
10. k標本問題
11. ノンパラメトリックの諸問題

途中に適宜、小テストをはさむ。なお、主体的に学習を進めてもらうため講義内でいくつか課題を出し、レポートも提出してもらう。

【評価方法】 定期試験8割、小テスト2割で評価する。なお、レポートは最大2割の追加評価に用いる。

【テキスト】 「統計学的方法Ⅱ」に引き続き、以下の本を教科書として使用する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75655	ソフトウェア工学	選	2後~4	2	後期	野呂 昌満
他の科目との関連	情報処理やプログラミングでソフトウェア作成に興味を持ち、卒業研究にソフトウェアに関する話題を選ぶ人を対象とする。			他学科履修	不可	重複履修不可

【講義内容】 ソフトウェア工学の技術側面について講義する。データ抽象化の概念を説明することから始め、オブジェクト指向の考え方をすることを目的とする。オブジェクト指向統一表記法について説明し、それを使ってソフトウェアを記述する方法を学ぶ。

【講義計画】 以下の内容・順序で講義を行なう。
 1. ソフトウェア工学概論
 ソフトウェア工学に関する話題を広くとりあげ、説明する。
 2. データ抽象化
 ソフトウェア工学における抽象化の役割から始め、抽象データ型について説明する。
 3. 抽象データを使ったプログラムの設計
 実例を用いてデータ抽象化について説明する。
 4. オブジェクト指向
 オブジェクト指向計算についてプログラミング言語の立場から理解することに努める。
 5. オブジェクト指向統一表記法
 UML (Unified Modeling Language) を紹介し、実例もって説明する。
 6. オブジェクト指向プログラムの開発
 オブジェクト指向プログラムの開発例を使って、オブジェクト指向ソフトウェア開発法を説明する。

【評価方法】 最終回にソフトウェアを設計・実現する課題を出す。1～4人で組になりそのソフトウェアを設計・実現する。この設計・実現についてレポートを書く。以下の基準で評価する。
 A+： 文書をUMLで書き、実現を行なった。
 A： 文書をUMLで書き欠陥がない。
 B： とにかく文書をUMLで書いた。
 C、F： それ以外。

【テキスト】 特になし。必要な資料を講義時に配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75659	多変量解析B	選	2後~4	2	前期	木村 美善
他の科目との関連	データ解析Ⅰ・Ⅱ、統計的方法Ⅰ・Ⅱを履修しているのが望ましい			他学科履修	不可	重複履修不可

【講義内容】 各種多変量解析法の解説とその応用について講義する。応用にあたっては、データ解析とグラフィックスのための対話型環境である「S-PLUS」を利用する。実習を採り入れ、3回の授業に対して1回の割合でレポートを作成し、提出してもらうつもりである。理論的厳密性よりも直観的理解に重点をおく。

【講義計画】
 1. 多変量解析法概説
 2. 主成分分析法
 3. 数量化Ⅰ類
 4. 数量化Ⅱ類
 5. 数量化Ⅲ類
 6. 数量化Ⅳ類
 7. 多次元尺度構成法
 8. クラスター分析法

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75661	通信システムⅠ	選	2後~4	2	後期	後藤 邦夫
他の科目との関連	通信システムⅡを履修するための前提科目			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 近年一層重要性の高まっている通信ネットワークの原理を学ぶ。通信システムⅠでは、概説として、通信媒体、アナログ伝送、デジタル伝送、回線交換、パケット交換、通信プロトコル（通信規約）の概念の学習と学内通信ネットワーク、インターネットの紹介を行う。普通教室での講義を中心とし、2回程度の計算機実習を行う。

通信技術の概要のみを勉強したいものは、本科目だけ履修し、Ⅱを履修する必要はない。勉強をしないで試験を受けても単位は取れないので注意して欲しい。

【講義計画】 以下の予定で、講義ノートを中心に授業を進める。

1. Introduction 通信の基礎
 2. 伝送システム
 3. 電話システム
 4. デジタル通信ネットワーク
 5. 学内、学外通信ネットワーク（インターネット）の紹介と利用
 6. 実習1
 7. 実習2
 8. 性能評価の必要性とその手法
 9. 通信ネットワークアーキテクチャ 通信プロトコルの標準化とOSIリファレンスモデル。プロトコルの階層構造
 10. データリンクレイヤ
 11. ネットワークレイヤ
 12. 上位レイヤ、まとめ
- 後期定期試験

【評価方法】 実習に関するレポート（簡単なもの1回）－30点

後期定期試験（常識の範囲でなんでも持ち込み可）－70点

試験、成績が芳しくない場合は不定期にとる出席を考慮する。

【テキスト】 講義ノート、配布資料を中心とする。

(<http://doobie.iq.nanzan-u.ac.jp/goto-classes/comm-sys/1/>)

参考図書：

宮原、尾家、「コンピュータネットワーク」、森北出版、1992.（2,060円）

M. Schwartz, Telecommunication Networks, Addison-Wesley, 1987.

Unixマガジン（アスキー、月刊）、インターネットマガジン（インプレス）、wwwによる情報（無料）

その他資料：

インターネット利用者のための用語集（日本語訳）

(<http://doobie.iq.nanzan-u.ac.jp/rfc-jp/rfc1983-jp.txt>)

後藤の講演資料等

(<http://doobie.iq.nanzan-u.ac.jp/goto-docs/>)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75663	通信システムⅡ	選	2後~4	2	前期	後藤 邦夫
他の科目との関連	「通信システムⅠ」に続く、より専門性の高い内容			他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 ローカルエリアネットワークとInternetプロトコルの詳細、Internetプロトコルを用いたUNIX通信プログラミングについて学習し、さらに、B-ISDN（広帯域統合デジタル網）などの最新技術を紹介する。

勉強をしないで試験を受けても単位は取れないので注意して欲しい。

通信技術の概要のみを勉強したいものは、本科目を履修する必要はない。

講義ノートはオンラインで読めるので、登録前に読んでみて欲しい。

【講義計画】 以下の予定で、講義ノートを中心に授業を進める。

1. 広域ネットワークの世界

2. Internetプロトコル
3. Unixネットワーク機能概説 (実習)
4. Unixネットワークプログラミング入門 (実習)
5. ローカルエリアネットワーク
ポーリングとランダムアクセス
6. CSMA/CD LAN
7. Token passing Ring
8. 音声の符号化とデジタル回線交換
9. ISDNのサービス
10. ISDNの技術
11. Broadband ISDN
12. 夢のネットワーク社会、まとめ
後期定期試験

【評価方法】 実習に関するレポート (簡単なもの 1 回) - 30 点
後期定期試験 (常識の範囲でなんでも持ち込み可) - 70 点
試験、成績が芳しくない場合は不定期にとる出席を考慮する。

【テキスト】 講義ノート、配布資料を中心とする。
(<http://doobie.iq.nanzan-u.ac.jp/goto-classes/comm-sys/2/>)

参考図書

宮原、尾家、「コンピュータネットワーク」、森北出版、1992. (2,060 円)
M. Schwartz, Telecommunication Networks, Addison-Wesley, 1987.
Unixマガジン (アスキー、月刊)、インターネットマガジン (インプレス)、wwwによる情報 (無料)
W.R. Stevens, Unix Network Programming, Prentice Hall, 1990. (日本語版あり)

その他資料

インターネット利用者のための用語集 (日本語訳)
(<http://doobie.iq.nanzan-u.ac.jp/rfc-jp/rfc1983-jp.txt>)

後藤の講演資料等
(<http://doobie.iq.nanzan-u.ac.jp/goto-docs/>)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75665	データ解析 I	選	2後~4	2	前期	松田 眞一
他の科目との関連	情報実習 I・II と関連するが、平行して履修可			他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 統計的方法を正しく理解するには、実際のデータ解析を行うのが一番である。本講義では、統計ソフト S-plus の使い方から始めて、初歩的な統計的方法に対するデータ解析の解説と演習を行う。その際、コンピュータに使われるのではなく、使いこなすようにしてもらいたい。

【講義計画】

1. 計算機環境とデータ入力
2. 基本統計量
3. 一標本の平均の信頼区間と検定
4. 二標本の平均の差と信頼区間
5. 比率の信頼区間
6. 適合度検定
7. 分割表
8. 線形単回帰
9. 線形重回帰とダミー変数
10. 分散分析 (一元配置)
11. 分散分析 (二元配置)

【評価方法】 レポートで評価する。(時間内にもいくつか出題する)

【テキスト】 「統計的方法 I・II」で使用した『統計解析入門』及び情報実習で配布する『S-plus利用の手引き』。その他プリントはこちらで準備する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75667	データ解析Ⅱ	選	2後~4	2	後期	松田 眞一
他の科目との関連	データ解析Ⅰを前提とする。			他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 「データ解析Ⅰ」に引き続き、より高度な統計的方法の理解と実践を目指す。

【講義計画】 1. S-plusにおける関数とは
2. 関数の作成
3. モンテカルロ・シミュレーション
4. 多変量解析

【評価方法】 レポートで評価する。プログラミングの知識が必要。

【テキスト】 プリントをこちらで準備する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75673	プログラミング科学	選	2後~4	2	前期	真野 芳久
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 計算機は書かれたプログラム通りに動くのであって、書いた人の意図に基づいて動くのではない。そこで、書かれたプログラムが意図に一致しているかどうか、つまり、正しいプログラムかどうかを常に問題となる。
ここでは、
・「プログラムが正しい」とはどういうことかを理解し、プログラムの正しさを示す方法を学び、
・プログラムを正しく作る方法（Dijkstra流のプログラミング方法）を学ぶ。
そのために、多少数学的な議論が必要になる。ただし、半期の科目であるため、あまり深くは立ち入らず、例題を多く使って分かりやすい講義としたい。

【講義計画】 毎回講義資料を配布し、それに基づいて講義を進める。ただし、講義内容を深く理解するために、練習問題を各自で解いてみる必要がある。
以下の内容を順次講義していく。
・ここで使用する命題論理、述語論理について。
・流れ図プログラムの正しさの証明。
・Pascal風のプログラムの正しさの証明。
・Dijkstra言語の紹介と定義。
・Dijkstra流のプログラミング方法。
述語論理に関する知識と応用能力、アルゴリズムを理解する力、論理的な思考能力が必要である。（講義内で使う述語論理の基本性質については説明する。）

【評価方法】 レポート課題と定期試験によって評価する。

【テキスト】 参考書として、次の3冊を挙げておく。（必要に応じて参照することが望ましい。）
・E. W. Dijkstra : A Discipline of Programming, Prentice-Hall 1976。
浦、土居、原田（訳）：プログラミング原論、サイエンス社 1983。
・E. W. Dijkstra, W. H. J. Feijen : A Method of Programming, Addison-Wesley 1991。
玉井（訳）：プログラミングの方法、サイエンス社 1991。
・D. Cries : The Science of Programming, Springer-Verlag 1981。
笈（訳）：プログラミングの科学、培風館 1991。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75675	プログラミング言語処理Ⅰ	選	2後~4	2	後期	真野 芳久
他の科目との関連	「プログラミング言語処理Ⅱ」を履修する場合、事前にこの科目を履修しておくことが強く望まれる。			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 人の書いたソースプログラムを計算機上で実行できる形に交換したり実行環境を提供する計算機プログラムを言語処理系と呼ぶ。

ここでは、ソースプログラムを機械語あるいはそれに近いものに変換するコンパイラの構造とその基礎理論を理解することを主なテーマとする。

【講義計画】 以下の順序で講義を進める。

- ・言語処理系の役割とその処理内容
- ・プログラミング言語の定義を記述する方法（正規表現、文脈自由文法、BNF）
- ・字句解析
- ・構文解析（再帰下降型、LL（1）、LR（1））
- ・記号表
- ・中間表現
- ・コード生成、最適化

【評価方法】 レポート課題と定期試験とによって評価する。レポート課題では主に、知識の体系的理解の確認とやや複雑な計算問題に関するもの、定期試験では言語処理に関する基本知識に関するものとする。

【テキスト】 疋田、石畑『コンパイラの理論と実現』（共立出版、1988）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75677	プログラミング言語処理Ⅱ	選	2後~4	2	前期	野呂 昌満
他の科目との関連	情報処理・プログラミング・プログラミング言語処理Ⅰ・アルゴリズム論			他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 実用的な字句解析部生成系lexと構文解析部生成系yaccを使ってプログラミング言語処理系を作成し、生成系の役割、プログラミング言語処理の実際について講義する。

【講義計画】 lexおよびyaccの行動ルーチンはプログラミング言語cで記述するので、まずcの説明から始める。ついで、lex、yaccについて説明する。最期に、課題で処理する簡単なプログラミング言語の文法と意味を説明する。

【評価方法】 以下の基準を原則として成績をつける。

- ・lexを使って字句解析部をつくる C
- ・yaccを使って構文解析部をつくる B
- ・行動ルーチンを記述して中間形を出力する A
- ・コード生成を行う A+

【テキスト】 資料を講義時に配布又は電子掲示板に掲示。齊藤孝著“yaccとlexの使い方”HBJ出版局

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75679 75681	情報・通信科学論A・B	選	2後~4	各2	後期 前期	野呂 昌満 他 長谷川利治 他
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 A：ソフトウェア工学 B：システムインテグレーションとマルチメディア通信

【講義内容】 この情報通信科学論A・Bでは、情報通信の分野でご活躍されている方々を学外から講師に招き、最新技術の動向、ビジネスの展開などについて、お話し頂きます。

Aでは、ソフトウェア工学を応用するという観点から講義する。

Bでは、メインフレーム、ワークステーション、パーソナルコンピュータなど様々な機種、ベンダーの計算機などをネットワークで接続し、一つのシステムに組み上げるという、いわゆるシステムインテグレーションと、現在、新聞やテレビで毎日のように取り上げられているマルチメディア通信の本質、ビジネスとしての今後の展開などについて、お話します。

なおAとBの単位は別であり、どちらか一方のみを履修することも出来る。

1995年度の情報通信科学論Bの講義資料の一部は、URL：<http://www.nanan-u.ac.jp/goto-docs/JTB/>で読める。

【講義計画】 隔週で2コマ続けて1つのテーマについて講義する。各講師の講義の概要は、最初の時間にお知らせします。本年度はBが前期Aが後期に開講されます。

A：1. ソフト工学概論——野呂昌満

2 回目以降順序未定

2. ソフトウェアプロセス
3. ソフトウェア開発環境
4. ソフトウェア設計方法論
5. ソフトウェア品質保証
6. プログラミング言語
7. 形式的手法

B：1. オリエンテーション——長谷川利治

2. システムインテグレーションとは
3. インターネットとマルチメディア
4. マルチメディア通信の現状と将来
5. ケーブルテレビジョンとマルチメディア
6. マスコミュニケーションとマルチメディア

【評価方法】 毎回出席が原則。各講師が担当した講義に関し、簡単な1,500字程度のレポートを課す。提出は電子メールで行う。締切りはそれぞれ2週間後である。それらのレポートの評価を総合して成績をつける。

【テキスト】 各講師が配布するプリント等。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
75683	情報倫理	選	2後~4	2	前期	長谷川利治
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修不可

【講義内容】 情報化社会の特性と問題点について述べ、情報化社会の構成員が守らなければならない倫理について講述すると共に、自衛手段に言及する。

【講義計画】

1. 情報化社会の特性と問題点、情報倫理
2. 情報セキュリティ
3. 個人情報
4. 情報操作
5. 知的所有権
6. コンピュータ犯罪

【評価方法】 定期試験、レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】 私立大学情報教育協会編「情報倫理概論」